

ここからは、小学校国語科を例にした、「学習構想案」を紹介します。

第6学年 国語科 学習構想案

日 時 令和元年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 場 所 〇年〇組教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	作品の魅力を推薦カードに書いて伝えよう「海のいのち」(発行者名「教科書名」P.〇〇~〇〇)		
単元の目標	(1) 語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。 [知識及び技能] (1)オ (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)オ (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。 ②比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。	①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(イ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(オ)	①進んで登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉え、学習の見通しをもって、考えたことを推薦カードにまとめようとしている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
物語を読むときに表現の工夫など、言葉に着目して場面の様子や心情の変化を読み、作品の魅力を伝えようとする児童			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
「海のいのち」の作品の魅力を推薦カードにまとめ、伝え合おう。		登場人物の行動や会話、情景描写などの言葉に意識的に着目して、言葉への自覚を高めること。	
指導計画と評価計画(10時間取扱い 本時7/10)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」を記載
一	2	○ 作品の魅力を推薦カードに書く体験を通して、推薦する言語活動を行うために必要な学習について見通しをもつ。 ○ 単元の学習計画を立て、物語の構成や内容を確認する。	【態①】(ワークシート) 【思①】(ノート)
二	6	○ 父の人物像から、太一の心情を読む。 ○ 与吉じいさの人物像から太一の心情を読む。 ○ 母の会話から太一の心情を読む。 ○ クエの描写から太一の心情を読む。 ○ <u>太一の表情の描写から太一の心情の移り変わりについて読む。(本時)</u> ○ あと語りの場面の効果について読む。	★【知①】(ノート) ○ 地の文にある色彩表現、会話文にある比喩などの表現の工夫に気付いている。 ★【知②】(ノート) ○ 登場人物の行動や情景を描写した語句の工夫や変化について理解している。 ★【思①】(ノート・発言) ○ 太一自身やほかの登場人物の描写などから、人物相互の関係や太一の心情を捉えている。 【思②】(ノート・発言)
三	2	○ 作品の魅力を伝える推薦カードを書き、相手の求めに応じた推薦カードを紹介し合う。 ○ 単元で身に付けた力を振り返る。	★【思②】(ワークシート) ○ 読んで理解したことを基に、自分の考えを推薦カードまとめている。 ★【態①】(ノート) ○ 描写を基に、登場人物の関係や心情についての自分の考えを、進んで推薦カードにまとめようとしている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容, 指導事項等)				
小学校学習指導要領第5学年及び第6学年 [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 [思考力, 判断力, 表現力等] 「C読むこと」				
教材・題材の価値				
本教材は, 物語の構成がはっきりしており, 直接的に心情を描写した叙述が少なく, 会話文や動作の描写, 情景描写などから暗示的に示されている心情などを読み取っていくことに適している。				
本単元における系統(横軸を当該学年での他領域とのつながり, 縦軸を他学年での同領域のつながり)				
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 5年「大造じいさんがん」 情景描写に着目し, 登場人物の心情を捉える </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 6年「風切るつばさ」 行動や会話に着目し, 登場人物相互の関係を捉える </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; text-align: center;"> 6年「海のいのち」 行動や会話や情景描写に着目し, 登場人物の心情を捉える </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 6年「ヒロシマのうた」 行動や会話や情景描写に着目し, 自分の考えをまとめる </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 中1「飛べ かもめ」 場面の展開や情景描写に着目し, 自分の考えを確かなものにする </div> </div>				
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況(HO年全国学力・学習状況調査)(%)				
調査内容	概ね(6割~8割程度)	十分(8割以上)		
語句と語句との関係を理解することができる。	—	—		
心情などについて, 描写を基に捉えることができる。	—	—		
考えたことを推薦カードにまとめることができる。	—	—		
■本単元の学習に関する意識の状況 (%)				
調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
自分の考えを深めたり, 広げたりすることができていると思う。	—	—	—	—
課題解決に向けて, 自分で考え, 自分から取り組んでいたと思う。	—	—	—	—
推薦するときには, 相手の求めに応じて推薦していたと思う。	—	—	—	—
■考察 (資質・能力に関して) 語句と語句との関係を理解することは概ねできているものの, 文脈に沿った理解については, 今後も重ねて指導が必要である。描写を基に心情を読むことは不十分な状況にあるため, 一つ一つの描写に対して, 語句の理解を確認するとともに, その描写から想像される心情を対話によって他者と確認し合う学習が必要である。推薦するという言語活動の経験はあるものの, 相手の求めに応じて推薦するという意識はあまり高くなく, 相手意識を持たせる必要がある。 (学びに関して) 主体的・対話的で深い学びの視点から, 学びの状況を見ると, 課題の解決に向けて, 自分から取り組むなど, 主体的な姿がある一方で, 自分の考えを深めたり, 広げたりすることについては, あまりできていない。対話や交流の場面があることによって, 自分の考えがどのように変容したかを実感する学習が必要である。				

3 指導に当たっての留意点

- 作品の魅力を紹介文にまとめ, 伝え合うという目的意識・相手意識を明確にすることによって, 主体的に学ぶことができるようにする。
- 推薦文を書くために, 作品の魅力を見つけるポイントを明確に示し, それが読みの手がかりとなるように工夫する。
- 単元の導入時に推薦カードを書く活動を体験する場面を設けることで, 児童が言語活動の遂行に対する課題意識を持てるようにする。



4 本時の学習

(1) 目標 推薦カードにまとめるために、太一の様子の描写について着目し、瀬の主を殺したい気持ちから、海のいのちを大切にすることに変わった太一の心情の移り変わりを読むことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	<p>1 課題をつかむ</p> <p>①表現の工夫の意図など、これまでの作者の書きぶりを振り返る。 ◇これまでは色彩描写により登場人物の様子を詳しく表す書きぶりを学習したな。</p> <p>【めあて】 太一の様子を表した描写から、太一の心情の移り変わりを読もう。</p> <p>②作者の書きぶりについて問いを持つ。 ◇どうして、ここだけに太一の表情が書かれているのだろう。</p> <p>【学習課題】 太一の表情の変化に着目すると、太一の心情はどのように移り変わったのだろう。</p>	<p>○単元のゴールを確かめ、単元計画からめあてを設定する。</p> <p>(「問い」を生み出す手立て等)</p> <p>○山場の場面の太一の描写について、挿絵を基にどのような表情なのかを問う。</p> <p>(見方・考え方を働かせて課題解決に向かう方向付け)</p> <p>○「泣きそう」「ふっとほほえみ」「えがおを作った」の言葉の理解について、近隣の児童同士で確認する。</p>
		<p>2 課題の解決に向けて活動する</p> <p>①自身の考えを持つ。 ◇表情が「泣きそう」から「えがお」になっているから、最後は心情が変わっているようだ。</p> <p>②他者との対話により、考えをまとめる。 ◇「ふっと」という言葉から、自然に生み出された感じがする。だから、きっと太一は、ここで「海の命」を守ることに本当に気付くことができたとと思う。 ◇「作った」ということは、さっきの「ふっと」とは違って、自分でしたということを表していると思う。</p> <p>【期待される学びの姿】 太一の表情の描写に着目し、表情の変化に沿って、海のいのちを大切にしようとして移り変わる心情を想像している。</p>	<p>(課題解決に向けた見通しを持つ手立て)</p> <p>○「泣きそう」「ふっとほほえみ」「えがおを作った」の言葉を取り出し、それぞれにどのような心情が表されているかについて自分の考えを書くようにし、移り変わりを捉えやすくする。</p> <p>【具体的評価規準】 思① ○太一自身の描写から、太一の心情の移り変わりを捉えている。 (方法：ノート・発言)</p> <p>【到達していない児童への手立て】 ○場面の最初と最後の心情の違いを確かめ、場面の途中でどのような心情になったのかを個別に問い、考えを確かめていく。</p>
終末	10分	<p>3 学習課題に対する答えをまとめ、めあてに対する振り返りをする。</p> <p>【まとめ】 太一の心情は、瀬の主を殺し、父の敵を討ちたい気持ちから、(瀬の主の姿を見て) 海のいのちを大切にしようとする気持ちに変わった。</p> <p>◇今日も作者の工夫した書きぶりから、作者が考えを持って工夫していることがよく分かった。物語の表現の工夫についても着目して、ほかの作品も読んでみたいな。</p>	<p>○めあてや課題と照らして行い、課題解決の方法や学習内容をまとめる。</p> <p>○本時の学びの成果や課題とその要因、課題の改善方法等を共有する。</p> <p>○自らの学びを調整したり、新たな問いを設定したりするなど、振り返りを具体的に行う。</p>


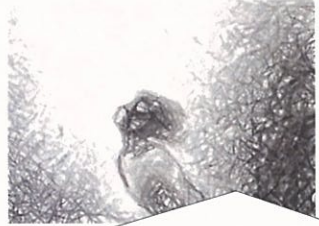
【板書計画】

<p>まとめ</p> <p>太一の心情は、瀬の主を殺し、父の敵を討ちたい気持ちから、(瀬の主の姿を見て)海のいのちを大切にしようとする気持ちに変わった。</p>	<p>交流</p> <p>※友だちや他のグループの考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふっと」という言葉から、自然に生み出された感じがする。だから、きっと太一は「こ」で、「海のいのち」を守ることに本当に気付くことができたと思う。 ・「作った」ということは、さっきの「ふっと」とは違って、自分でしたということを表していると思う。 	  <p>解決方法</p> <p>※山場の場面では</p> <p>『太一の表情の描写』から読む</p> <p>「泣きそう」</p> <p>「ふっとほほえみ」</p> <p>「えがおを作った」</p> <p>※自分の考えをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表情の変化が「泣きそう」から「えがお」に変わっている。 ・悔しかったはず、でも、笑顔になっているから、最後は心情が変わっているようだ。 	<p>めあて</p> <p>太一の様子を表した描写から、太一の心情の移り変わりを読もう。</p>	<p>単元の学習課題</p> <p>「海のいのち」の作品の魅力を推薦カードにまとめ、伝え合おう。</p> <p>※これまで読み取ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> 【父の人物像から】 【与吉じいさの人物像から】 【母の会話から】 【クエの描写から】 	<p>「海のいのち」(物語文)</p> <p>立松 和平</p>
---	--	---	---	--	----------------------------------

【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

例デジタル教科書にある挿絵を電子黒板で拡大提示し、課題に迫る読み取りのイメージを共有する。

 <p>【提示①】 本時の「山場の場面」を共有できるように、この挿絵を拡大提示する。</p>	 <p>【提示②】 本時の課題解決のキーワードとなる、「太一の表情の描写」に迫れるようにこの挿絵を拡大提示する。</p>
--	---

この挿絵を、一人一人の端末(タブレットパソコン)に配付し、文章から読み取った自分の考えを直接書き込み送信することで、全体共有の場において、瞬時に電子黒板に拡大提示して、共有化を図ることができる。

※単元を通じた課題である『海のいのち』の作品の魅力を推薦カードにまとめ、伝え合おう』による作品づくりについては、伝え合う際に、共有化が図れるように、一人一人の端末(タブレットパソコン)で行う。

※その他 課題解決を図る情報収集計画、検証結果やパフォーマンスの記録計画など(シーンに応じて活用計画を立てる)

【適用問題等の工夫】

例：単元の終末では、これまで身に付けたことを生かして次の学習に取り組む

例1 ※語句と語句との関係、語句の構成や変化についての定着状況の確認

【全国学力・学習状況調査】平成〇〇年度 大問〇

【熊本県学力調査「ゆうチャレンジ」】平成〇〇年度 大問〇

【課題克服プリント】平成〇〇年度提供 問題〇

例2 ※本単元で動かさせた見方・考え方を生かして立松和平の他の作品や同じようなテーマを扱った物語を読み感想を書くことなども考えられる。

その他の教科・領域の学習構想案は、熊本県教育委員会のホームページに掲載していきます。

熊本県教育委員会 検索

重点3 自分なりの問いを立て、探り、新たな問いへとつながる「探究的な学び」を展開しましょう

はじめに

- ここでは、「総合的な学習の時間」の充実に向けて、指導の在り方や諸計画について具体例を示しながら説明します。

あなたの学校では「総合的な学習の時間」はどんな時間になっていますか？

例えば、



●●先生、明日の「総合的な学習の時間」は何をしましょうか？



先生、今日の「総合的な学習の時間」は、何をするんですか。



文化祭の展示物を貼る時間がないから、来週の「総合的な学習の時間」を使おう！

もし、上のような会話が行われているとしたら、その時間は、「探究的な学び」の時間になっていると言えるでしょうか？

Q1 総合的な学習の時間の目標はどうやって決めたらいいの？



各学校が定める総合的な学習の時間における目標は、**学校教育目標の実現**につながるものとなっていることや、総合的な学習の時間を通して育成を目指す**資質・能力**が示されていることが重要です。

Q2 総合的な学習の時間の内容はどうやって定めたらいいの？



内容については、「目標を実現するにふさわしい探究課題」、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の2つを定めます。

目標を実現するにふさわしい探究課題とは、**探究的に関わりを深める人・もの・ことを示したものです**。例えば、「身近な自然環境とそこで起きている環境問題」、「地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々」、「実社会で働く人々の姿と自己の将来」など、**現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題**などを踏まえて設定することが大切です。

また探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力とは、各学校において定める目標に記された資質・能力を各探究課題に即して具体的に示すことが重要です。

Q3 総合的な学習の時間の学習活動はどうやって進めていったらいいの？

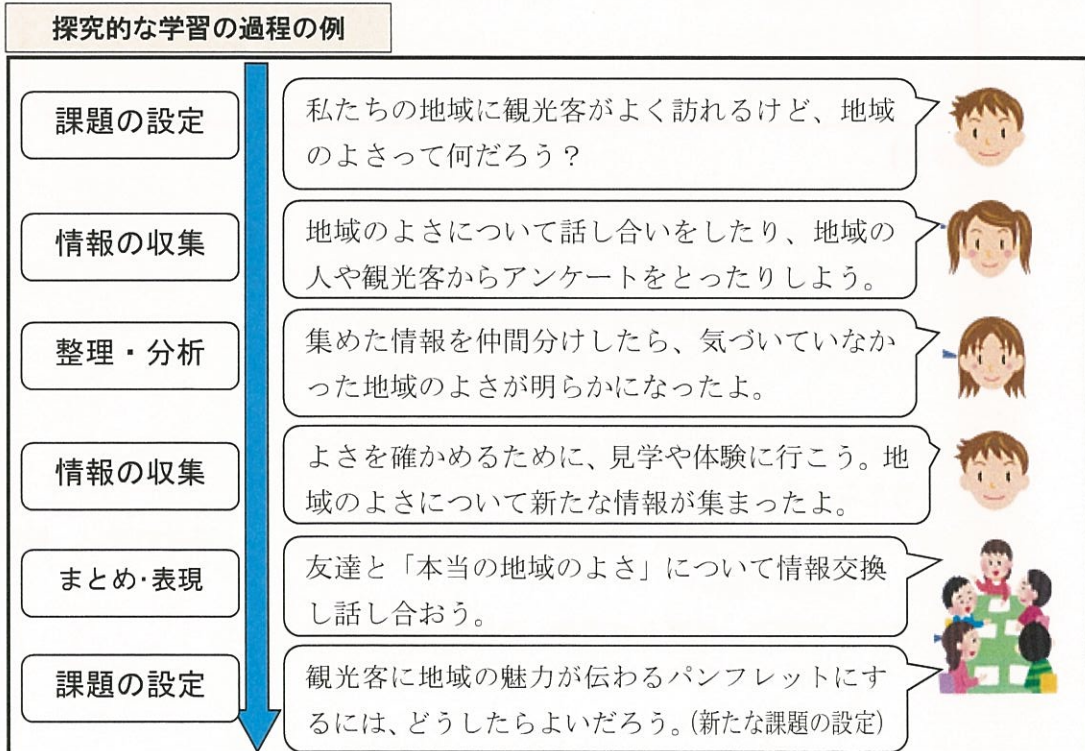
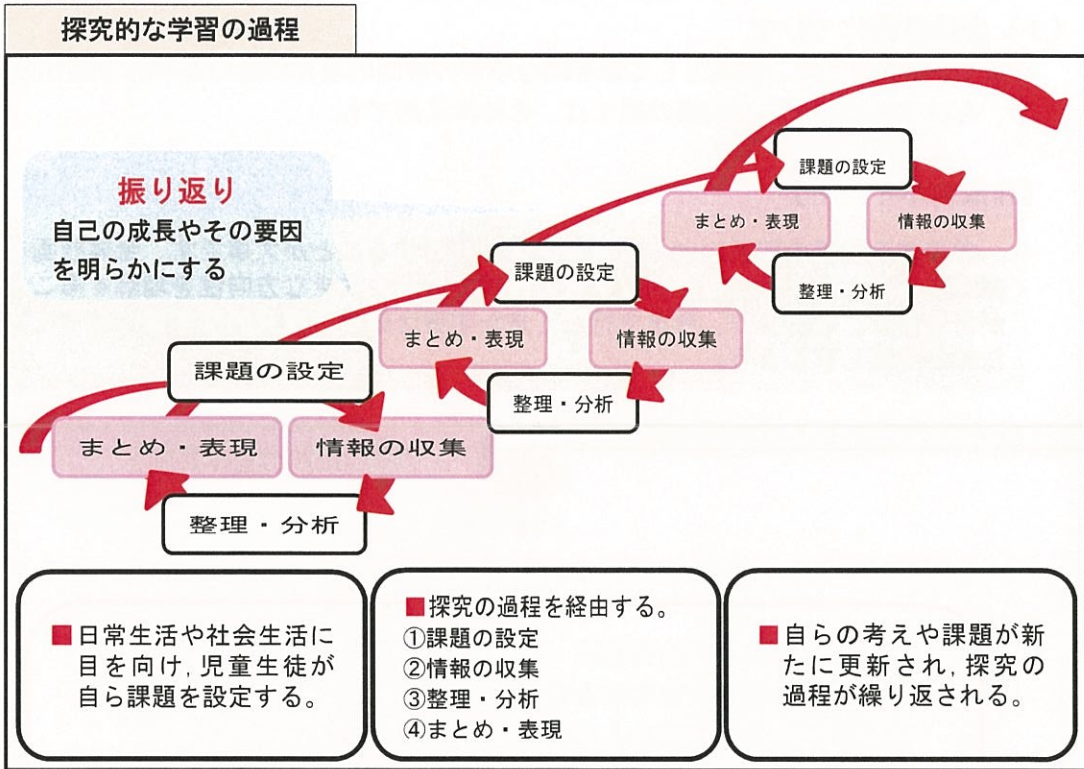


探究的な学習（日常生活や社会に生起する複雑な問題について、その本質を探って、見極めようとする学習）の**過程**を踏まえた学習活動になっていることです。

Q4 探究的な学習とは？



「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」など、問題解決的な活動が**発展的に繰り返されて**いくことです。



- 「総合的な学習の時間」で年間を通して探究的な学習を進めていくために適切な諸計画を作成することが大切です。以下に主な3点について、作成のポイントを示します。

(1) 全体計画について (2) 年間指導計画について (3) 単元計画について

(1) 全体計画について

- 全体計画とは、学校として総合的な学習の時間の教育活動の基本的な在り方を示すものです。次の頁の図1は、その作成例です。

【作成のポイント】

学校教育目標の実現には、教職員全体で共有することが大事です。全体計画を作成することにより、総合的な学習の時間で目指す大きな方向性を理解することができます。その上で、今まで行ってきた学習活動が、探究的な学習になっていたのか見直しましょう。



以前の全体計画と何が違うの？

- 全体計画では、以下の7項目を示すことが考えられます。

- ①各学校における教育目標（学校教育目標）
- ②各学校において定める目標
- ③各学校において定める内容（探究課題、資質・能力）
- ④学習活動
- ⑤指導方法
- ⑥指導体制
- ⑦学習の評価

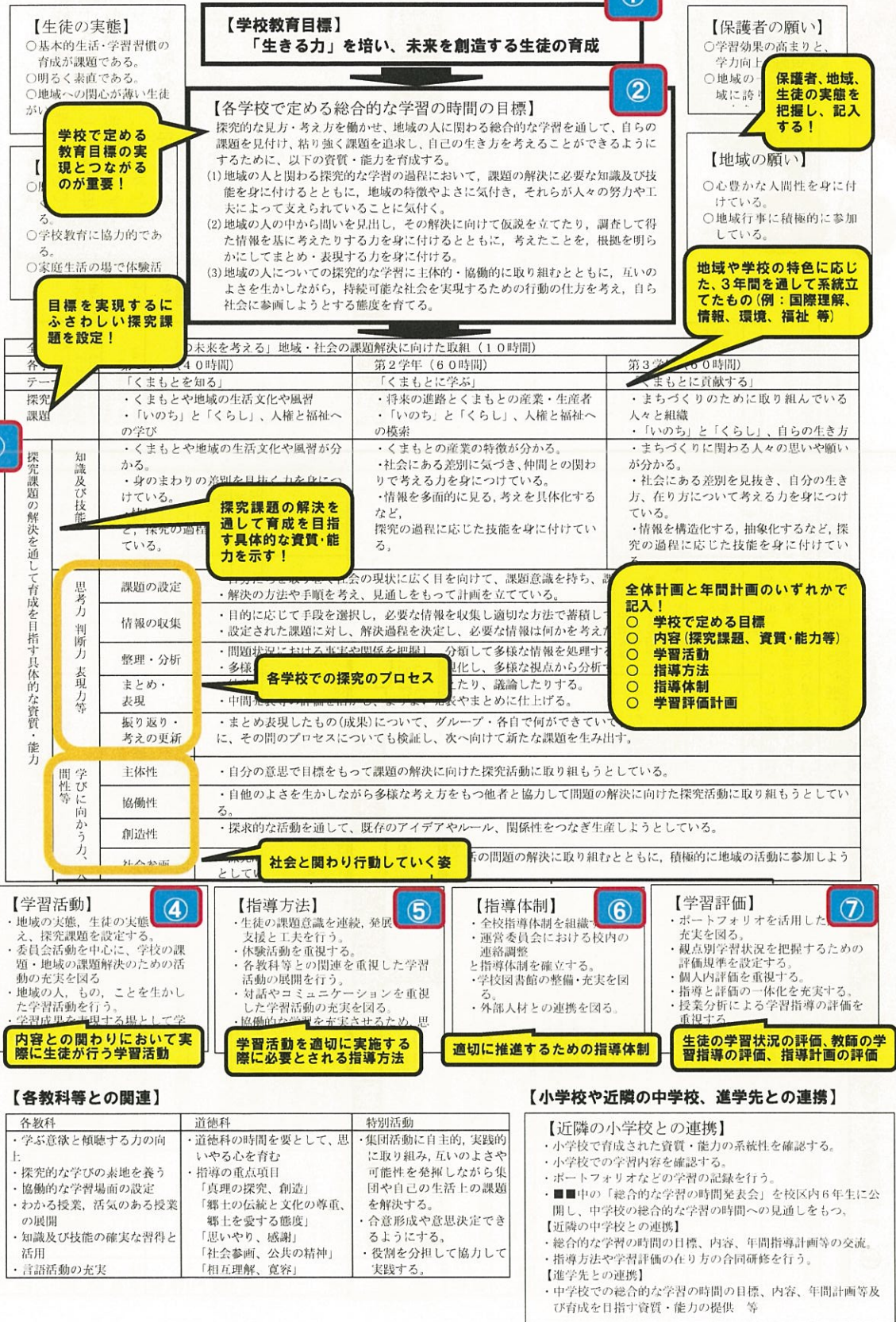
【参考】

- I 各学校において定める目標 P55 Q1参照
- II 各学校において定める内容（探究課題、資質・能力）P55 Q2参照
- III ④学習活動、⑤指導方法、⑥指導体制、⑦学習の評価については、その基本的な内容や方針等を示すことが考えられます。
①～⑦を示した全体計画の例は次頁を参照ください。

- 各学校が全体計画を示す上で必要と考える場合は、以下の項目を示すことが考えられます。
 - ・年度の重点、地域の実態、学校の実態、児童生徒の実態、保護者の願い、地域の願い、教職員の願い
 - ・各教科等との関連、地域との連携、小中学校との連携

【図1 作成例】

令和〇〇年度 ■■中学校 総合的な学習の時間 全体計画(例)



(2) 年間指導計画 (総合的な学習の時間を中核にした単元配列表) について
 年間指導計画とは、1年間の流れの中に単元を位置付けたものです。次の資料は、他教科との関連を図り、育成を目指す資質・能力を見通すための年間指導計画 (単元配列表) の作成例です。

① 1年間のすべての学習内容を書き出し、学習の見通しを持つ。

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	
行事等	・おぼあちやんの指席 ・アラガンナ ・ピエロ ・ボランディア ・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・遠慮の聖歌 ・ヤリガンナ ・西岡常一 ・原稿も焼きつくさなかつた差別	・二つのもつたいないめくみ ・自由だからこそ七十八円の命	・歌い手や少女 ・常太と若治 ・〜かまぼくし〜	・三六×十四回分のありか ・あきらめることは無意味だ ・前ははやくは	・この本の手で ・わたしの母 ・心は変わる ・客には言わんのですか	・自由という名の霧 ・私の気持ちが分かりますか ・手品師の3分間 ・手品師のバツリ	・ぼくの仕事は何所 ・手紙をくれたあなたたちへ ・兵隊さんのパツリ	・ぼくがやる役 ・星への手紙 ・太平洋の海 ・たい	・ひるがえる役 ・星への手紙 ・太平洋の海 ・たい
国語	・支度 ・カレライブ ・体のいぶき	・家から美しい ・朝の静けさ ・学校の集会をしよう ・筆者の意図をたよえ、自分の考えを表現しよう	・漢字の形と音・意味 ・私と本 ・森へ	・清原の屏風 ・ようこそお伝えのパン ・アプレツを作ろう ・よきことばの贈り	・未来がよりよくなるために ・生活の中の言葉 ・やまなし ・秋の深まり	・伝えたいこと ・この絵、私はこう見る ・漢字を正しく使えるように ・大地の文	・伝えること ・自然に学ぶ暮らし ・忘れられない言葉 ・葉	・未知へ ・自然に学ぶ暮らし ・忘れられない言葉 ・葉	・未知へ ・自然に学ぶ暮らし ・忘れられない言葉 ・葉	・未知へ ・自然に学ぶ暮らし ・忘れられない言葉 ・葉
書写	・書く姿勢 ・振返つてみよう	・基本的な筆使い ・形	・組み立て方 ・字の書き方	・文字の大きさ ・字の中心と配列	・大きさと配列 ・文字の中心と配列	・「希望の朝」 ・学習したことを生かして書き初め	・「希望の朝」 ・学習したことを生かして書き初め	・「希望の朝」 ・学習したことを生かして書き初め	・「希望の朝」 ・学習したことを生かして書き初め	
社会	・大隈に宮田と語り ・武士の政治が始まる	・大隈に宮田と語り ・武士の政治が始まる	・大隈に宮田と語り ・武士の政治が始まる	・大隈に宮田と語り ・武士の政治が始まる	・大隈に宮田と語り ・武士の政治が始まる	・大隈に宮田と語り ・武士の政治が始まる	・大隈に宮田と語り ・武士の政治が始まる	・大隈に宮田と語り ・武士の政治が始まる	・大隈に宮田と語り ・武士の政治が始まる	
算数	・対称な形 ・文字と式	・分数×分数 ・分数÷分数	・分数×分数 ・分数÷分数	・比とその利用 ・場合をあげて調べてみる	・速さ ・およその形と大きさ ・土地のつくりと変化	・豊かで平和な暮らしを築いて ・立体の体積 ・およその形と大きさ ・土地のつくりと変化	・豊かで平和な暮らしを築いて ・立体の体積 ・およその形と大きさ ・土地のつくりと変化	・豊かで平和な暮らしを築いて ・立体の体積 ・およその形と大きさ ・土地のつくりと変化	・豊かで平和な暮らしを築いて ・立体の体積 ・およその形と大きさ ・土地のつくりと変化	
理科	・植物の成長と日光の関わり	・植物の成長と日光の関わり ・生動上の関わり	・植物の成長と日光の関わり ・生動上の関わり	・植物の成長と日光の関わり ・生動上の関わり	・植物の成長と日光の関わり ・生動上の関わり	・植物の成長と日光の関わり ・生動上の関わり	・植物の成長と日光の関わり ・生動上の関わり	・植物の成長と日光の関わり ・生動上の関わり	・植物の成長と日光の関わり ・生動上の関わり	
総合	・郷土の伝統芸能を学ぼう④	・世界に語れる八代見舞祭〜地域を創造しよう⑩ 小単元1 (発見) ⑩ 小単元2 (探究1) ⑩ 小単元3 (探究2) ⑩ 小単元4 (表現) ⑩	・世界に語れる八代見舞祭〜地域を創造しよう⑩ 小単元1 (発見) ⑩ 小単元2 (探究1) ⑩ 小単元3 (探究2) ⑩ 小単元4 (表現) ⑩	・世界に語れる八代見舞祭〜地域を創造しよう⑩ 小単元1 (発見) ⑩ 小単元2 (探究1) ⑩ 小単元3 (探究2) ⑩ 小単元4 (表現) ⑩	・世界に語れる八代見舞祭〜地域を創造しよう⑩ 小単元1 (発見) ⑩ 小単元2 (探究1) ⑩ 小単元3 (探究2) ⑩ 小単元4 (表現) ⑩	・世界に語れる八代見舞祭〜地域を創造しよう⑩ 小単元1 (発見) ⑩ 小単元2 (探究1) ⑩ 小単元3 (探究2) ⑩ 小単元4 (表現) ⑩	・世界に語れる八代見舞祭〜地域を創造しよう⑩ 小単元1 (発見) ⑩ 小単元2 (探究1) ⑩ 小単元3 (探究2) ⑩ 小単元4 (表現) ⑩	・世界に語れる八代見舞祭〜地域を創造しよう⑩ 小単元1 (発見) ⑩ 小単元2 (探究1) ⑩ 小単元3 (探究2) ⑩ 小単元4 (表現) ⑩	・世界に語れる八代見舞祭〜地域を創造しよう⑩ 小単元1 (発見) ⑩ 小単元2 (探究1) ⑩ 小単元3 (探究2) ⑩ 小単元4 (表現) ⑩	
道徳	・おぼあちやんの指席 ・アラガンナ ・ピエロ ・ボランディア ・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・遠慮の聖歌 ・ヤリガンナ ・西岡常一 ・原稿も焼きつくさなかつた差別	・二つのもつたいないめくみ ・自由だからこそ七十八円の命	・歌い手や少女 ・常太と若治 ・〜かまぼくし〜	・三六×十四回分のありか ・あきらめることは無意味だ ・前ははやくは	・この本の手で ・わたしの母 ・心は変わる ・客には言わんのですか	・自由という名の霧 ・私の気持ちが分かりますか ・手品師の3分間 ・手品師のバツリ	・ぼくの仕事は何所 ・手紙をくれたあなたたちへ ・兵隊さんのパツリ	・ぼくがやる役 ・星への手紙 ・太平洋の海 ・たい	・ひるがえる役 ・星への手紙 ・太平洋の海 ・たい
徳	・おぼあちやんの指席 ・アラガンナ ・ピエロ ・ボランディア ・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・遠慮の聖歌 ・ヤリガンナ ・西岡常一 ・原稿も焼きつくさなかつた差別	・二つのもつたいないめくみ ・自由だからこそ七十八円の命	・歌い手や少女 ・常太と若治 ・〜かまぼくし〜	・三六×十四回分のありか ・あきらめることは無意味だ ・前ははやくは	・この本の手で ・わたしの母 ・心は変わる ・客には言わんのですか	・自由という名の霧 ・私の気持ちが分かりますか ・手品師の3分間 ・手品師のバツリ	・ぼくの仕事は何所 ・手紙をくれたあなたたちへ ・兵隊さんのパツリ	・ぼくがやる役 ・星への手紙 ・太平洋の海 ・たい	・ひるがえる役 ・星への手紙 ・太平洋の海 ・たい
音楽	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	
図工	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	
家庭	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	・豊かおんをひびかせよう ・感じたままに	
外国語	・This is me. ・When is your birthday? ・Welcome to Japan	・Let's go to Iyah. ・What time do you get up? ・My Summer Vacation.	・Let's go to Iyah. ・What time do you get up? ・My Summer Vacation.	・Let's go to Iyah. ・What time do you get up? ・My Summer Vacation.	・Let's go to Iyah. ・What time do you get up? ・My Summer Vacation.	・Let's go to Iyah. ・What time do you get up? ・My Summer Vacation.	・Let's go to Iyah. ・What time do you get up? ・My Summer Vacation.	・Let's go to Iyah. ・What time do you get up? ・My Summer Vacation.	・Let's go to Iyah. ・What time do you get up? ・My Summer Vacation.	・Let's go to Iyah. ・What time do you get up? ・My Summer Vacation.
学活	・係の活動を広げよう ・空想の旗・キャッチャーを作ろう	・1年生の生活を振り返ろう ・1学期振り返りの会 ・夏休みの挑戦	・1年生の生活を振り返ろう ・1学期振り返りの会 ・夏休みの挑戦	・1年生の生活を振り返ろう ・1学期振り返りの会 ・夏休みの挑戦	・1年生の生活を振り返ろう ・1学期振り返りの会 ・夏休みの挑戦	・1年生の生活を振り返ろう ・1学期振り返りの会 ・夏休みの挑戦	・1年生の生活を振り返ろう ・1学期振り返りの会 ・夏休みの挑戦	・1年生の生活を振り返ろう ・1学期振り返りの会 ・夏休みの挑戦	・1年生の生活を振り返ろう ・1学期振り返りの会 ・夏休みの挑戦	
クラブ	・地域の方といろいろなことに親しもう	・地域の方といろいろなことに親しもう	・地域の方といろいろなことに親しもう	・地域の方といろいろなことに親しもう	・地域の方といろいろなことに親しもう	・地域の方といろいろなことに親しもう	・地域の方といろいろなことに親しもう	・地域の方といろいろなことに親しもう	・地域の方といろいろなことに親しもう	

手順①
 1年間の学習内容を表に書き込みます。
 ・生活科や「総合的な学習の時間」を中心におくと、矢印でつなぎやすくなります。
 ・すべて書き出すことで、年間を通した学習が一望でき、指導の見通しが持てます。

わざわざ書き出すのは大変...もう分かっていることなのでは?

今まで児童の意識の中で何となくつなげていたもの(資質・能力)を、教師が意識してつなげていくことが大切です。



② 総合的な学習の時間と他教科との関連を図った単元配列表へ変えていく。

【探究課題】地域の祭り・様々な民族芸能から地域の未来を創造する

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
行事等	入学式 1年生 を送る	運動会	委員会 発表			読書 コンテスト	行事 発表	表彰 式
国語	筆者の意図をとらえ、自分の考えを 発表しよう	・私と本	町のよさを伝えるパ ンフレットを作ろう ようこそ私たちの町へ	意見聞き合っ て考えを深め、 意見文を書こう	生活の中の言葉 やまなし	・国語劇を鑑 賞し、感想を 発表しよう	・希望の節	・甲斐への挨拶
書写	・字形	・組み立て方	情報をもとに 伝えるために	文字の大きさ ・筆順に気を付けて	・大きさと配列 ・文字の中心と配列	・配列 ・好きな言葉	・6年とつながり が深い国々	・6年とつながり が深い国々
社会	・国つくりへの歩み	・実際に字んた回くり ・武士の政治が始ま る	・幕府の政治と人々 のくらし	・新しい文化と年間 ・新しい時代の幕開け	・近世国家に向けて 戦争と人々のくらし	・豊かで平和な暮 らしをめざして	・日本とつながり が深い国々	・6年とつながり が深い国々
算数								
理科								
総合	郷土の伝統芸能を 学ぼう④	小単元1 (発見) ⑩	世界に誇れる人 代妙見祭⑩ 小単元2 (探究1) ⑩	小単元3 (探究2) ⑩ 小単元4 (表現) ⑩	最高の卒業式を目指して⑩			
道徳			わたしたちの 妙見祭	平和って何だろう⑮				
音楽			・生活を楽しくす る物を作ろう	・身と心をつなぐ 箱根八景・花	・日本と世界の音楽に 親しもう 越天楽合奏 雅楽「越天楽」から	・心をつなぐ を広げよう	・心をつなぐ を広げよう	・心をつなぐ を広げよう
図工								
家庭								
外国								
言語								
学活								
クラブ								

手順②
他教科等で育成したい力や、学習内容の中で、「総合的な学習の時間」で育成を目指す資質・能力と関連があるものだけを残します。

手順③
総合的な学習の時間の学習活動を想定し、他教科等で育成したい力を活用・発揮できるよう、矢印をつないでいきます。
例えば、国語科で身に付けた資料を整理する力、新聞やリーフレットにまとめた表現する力を総合的にこの学習で活用しよう...など。
「総合的な学習の時間」で〇〇についての探究活動を行うから、各教科等の学習計画の時期を少し変えてみよう...なども考えられます。

単元配列表を作成し活用することで、各教科等で育成される資質・能力、そこで行われる学習活動がそれぞれにどのような関係になっているかが明らかになります。学びが相互に関連付いたり運動したりして、「活用・発揮」が実現する場として、総合的な学習の時間を中核に捉えたと資質・能力育成につながります。

(3) 単元計画

- 次に単元計画の作成のポイントについて説明します。

単元とは、課題の解決や探究的な学習活動が発展的に繰り返される一連の学習活動のまとめです。単元づくりでは、教師が意図やねらいをもって、児童生徒の実態に即して行います。児童生徒にとって意味のある課題の解決や探究的な学習活動のまとめとなるようには、児童生徒の興味や疑問を適切に扱うことが大切です。総合的な学習の時間には教科書や指導書がありません。探究的な学習を行うために、単元の計画を細かく立てておくことが大切です。

また、児童生徒が「問い」を立て、自分なりの方法でゴールに向かって学習を進めていくためには、教師のコーディネートが必要です。「問い」を生み出す資料や体験活動、GTとの出会い、事実、調べたことを整理したり議論したりする学習活動を、単元のどこの場面で提示・設定するかを細かく単元の計画として作成すると探究的な学習が生まれます。

単元計画設定例（4つの小単元がつながって、探究的な学習になっていきます）

〇〇小学校総合的な学習の時間の単元計画【第6学年：41時間】						
探究課題	地域に伝わる祭りとその歴史や保存活動の知識を深め、新たな課題に気付く。					
単元名	世界に誇れる「八代妙見祭」～地域の未来を創造しよう～					
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に伝わる祭りの歴史や保存活動の知識を深め、新たな課題に気付く。 ・文化遺産に指定されるまでの携わってきた人々の歩みや思いや願いを感じ取り、伝承の課題やそれらの解決方法について自分なりの考えをもち、必要な情報を効果的にまとめ、発信する。 ・地域の伝統文化と自分たちの生活を結び付け、生活や意識を見直していく。 					
小単元1 10時間	【発見】 「八代妙見祭」はどのように受け継がれてきたのか調べよう（歴史・これまでの活動・歩み）	【課題の設定】 ユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭に関心を持ち、調べていくための見直しを持つ。	【情報の収集】 八代妙見祭の歴史・神幸行列・それぞれの活動など様々な視点から情報を収集する。	【整理・分析】 収集した情報や体験活動を通してわかったことを、視点を決めて分類・整理する。	【まとめ・表現】 八代妙見祭についてわかったことを視点ごとに新聞にまとめる。 ・クラスや学年でまとめたことをポスターセッションする。	【振り返り】 八代妙見祭の歴史や出たことについてまとめることができたので、魅力や携わった人々の思いに目を向け、次の課題を設定する。
小単元2 10時間	【追究1】 「八代妙見祭に込められた思い」を知り、実際に体感しよう	【課題の設定】 八代妙見祭に携わる人々の「祭りに込められた思い」に迫るような課題を設定する。	【情報の収集】 GTを招き、祭りの様子や八代妙見祭の魅力について話を聞いた。体験したりする。	【整理・分析】 調べたことを分類し、整理して自分の考えをもち、まとめる。	【まとめ・表現】 八代妙見祭で活動して感じた人々の思いや願いを「〇〇版妙見祭」という形で表現する。	【振り返り】 八代妙見祭の魅力についてまとめる。その中で伝承の課題や問題点などを知り、新たな課題を設定する。
小単元3 12時間	【追究2】 八代妙見祭を未来へつなげるための提案を考えよう	【課題の設定】 妙見祭を受け継いでいる人々に話を聞き、伝承の課題を知り、追究課題を設定する。	【情報の収集】 追究課題について予思い、課題別グループで調べるテーマを設定し、調査活動を行う。	【整理・分析】 収集した情報や体験活動を通してわかったことを、視点を決めて分類・整理する。	【まとめ・表現】 祭りに込められた人々の思いや願いを知り、携わっている人々の思いや自分たちの思いを「おへんぎ」でまとめる。	【振り返り】 これまで追究してきたことを振り返り、自分たちができることは何かという点に着目し、次の学びへつなげるよう振り返りを行う。
小単元4 9時間	【表現】 祭りの伝承リーダーになって、地域の宝を未来へつなげよう。	【課題の設定】 調べたことを、どのように伝えるかを考える。	【整理・分析】 発表する内容を考える。 ・学習についての情報をまとめる。	【情報の収集】 発表する内容を深めるため、情報を再度収集する。 ・効果的に伝えるための方法を考える。	【まとめ・表現】 1年間の学習内容をまとめて、八代妙見祭について相手意識を明確にする。	【振り返り】 今まで調べたことから、自分の成長に気付くような振り返りを行い、これからどのように自分の力を広げていくかを考える。

ポイント①
単元全体のイメージをもつ
「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現→振り返り」の一連の流れを整理し、児童生徒の思いや予想とともに変更したり、見直したりしながら単元をつくっていきます。

ポイント②
問いでつながる小単元
小単元がつながっていくよう、各単元の終末場面では、探究したことから生まれた疑問を出し合ったり、新たな課題の設定につながるような事実を提示したりすることで、児童生徒の探究への意欲と学びを継続していきます。探究したい、調べたいと感じるワクワクするような問いを意識した単元の課題の設定の工夫を…!

ポイント③
魅力的なゴールの設定
この学習はなんのためにやっているのか、ゴールを魅力的なもの、実生活へと活かせるもの、地域と繋がるものにもできるのも総合的な学習の時間ならではの工夫です。

作成したポスターを実際の場面で活用してもらったり、社会に貢献する体験を計画に位置付けるのも効果的です。

単元計画をつくり、児童生徒の実態や担任の思いを取り入れ、見直しながら実施していきます。毎年ストックしていくと学校の財産になります。誰が見ても、何年生の担当になっても、その学校に赴任したばかりの教師も、総合的な学習の時間を探究的な学習の時間にすることができます。

- このような計画をもとに、探究的な学習を実践するにあたって、以下の点を確認しましょう。
 - 子供が自分なりの課題を設定し、見通しをもって学習に取り組んでいるか。
 - 目的に応じて必要な情報を適切に集めているか。
 - 集めた情報を自ら整理したり分析したりしているか。
 - 整理・分析した情報をもとに、自分自身の考えを交えて表現しているか。
 - まとめて表現したものや一連の学習活動を振り返り、新たな課題を生み出しているか。

おわりに

- 「総合的な学習の時間」の目標は、学習指導要領に示された目標を踏まえて、各学校で定めることとなっています。また、「総合的な学習の時間」には、教科書がありません。だからこそ、「総合的な学習の時間」においては、各学校の創意工夫した特色ある学習活動が展開できるのではないのでしょうか。

育てたい資質・能力を明確にして、計画を練って実行することで、子供たちの生きる力は、確実に育成されていきます。

そして、学習活動を展開する際、「探究的な学習の過程」になっているかどうか、ポイントとなります。これを重視することが「総合的な学習の時間」における「主体的・対話的で深い学び」の実現につながり、子供たちに育てたい力が育成されていきます。

- 「総合的な学習の時間」を通して育成を目指す資質・能力の実現に向けて、他教科等との関連を図りながら教育課程を編成、実施、評価し、改善を図っていくことは、教育課程の実施状況を評価し、改善していくカリキュラム・マネジメントの側面と深く関わっています。そのような意味から、「熊本の学び」の中核とも言えます。

まずは、各学校において育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラムを教師が協力して作成することが、第一歩です。そして、その計画に基づき実践を行い、気付きや修正点などを次年度に引き継いでいきましょう。

あなたの学校で「総合的な学習の時間」に、こんな声が聞こえてきたら、総合的な学習の時間が充実している証拠です。



来週の「総合的な学習の時間」では、～について子供たちが集めた情報を整理・分析する時間をとりましょう。



前回集めた情報を、同じ内容で仲間分けして整理してみよう。

夢の実現に向けて

～主体的に学びに向かう力を育むキャリア教育の充実～

- 「なぜ学ぶのか。」「この学びは将来何の役に立つのか。」という子供たちの問いの答えは、キャリア教育にあります。キャリア教育のねらいは、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けるということ。それは、まさに、「学ぶ意味」を問いながら「能動的に学び続ける力」を身に付けるという「熊本の学び」の理念と相通じるものです。
- 今回の指導要領改訂では、小・中・高等学校でキャリア教育の充実について新たに明記されました。このことにより、キャリア教育の視点を踏まえた授業の実施は、これまで以上に重要になります。ここでは、キャリア教育や、今後、各学校で作成が必要となるキャリア・パスポートについて説明します。

まずは、キャリア教育についてあらためて整理します。

Q 1 キャリア教育とはどのような教育ですか？

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」です。

子供たちが、学ぶことと自分の将来とのつながりを見通しながら、社会の中で自分の役割を果たしつつ自分らしい生き方を実現していくための力を育みます。

Q 2 キャリア教育で育む基礎的・汎用的能力とは、どのような力ですか？

「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つです。

それぞれの力の例は、以下のとおりです。

- **人間関係形成・社会形成能力** : 他者の個性を理解する力、コミュニケーション・スキル、リーダーシップ等
- **自己理解・自己管理能力** : 自己の役割の理解、自己の動機付け、忍耐力、主体的行動等
- **課題対応能力** : 情報の理解・選択・処理、課題発見、計画立案、実行力等
- **キャリアプランニング能力** : 学ぶこと・働くことの目的・意義の理解、生き方の多様性の理解、将来設計等

Q 3 キャリア教育は、どの教科で行うのですか？

特別活動の学級活動を要としながら、総合的な学習の時間や学校行事、道徳科や各教科における学習等、学校の教育活動全体を通じて行います。今回の改訂では、特別活動の学級活動の内容に「一人一人のキャリア形成と自己実現」が新たに設けられました。

指導に当たっては、子供たちが活動を記録し蓄積する教材等（「キャリア・パスポート」）を活用することが大切です。

次に、「キャリア・パスポート」の必要性について説明します。

Q 1 「キャリア・パスポート」とはどのようなものですか？

「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が自らの学習活動等の学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材のことです。

令和2年度（2020年度）4月から、すべての小・中・義務教育学校・高校において実施することとなっています。

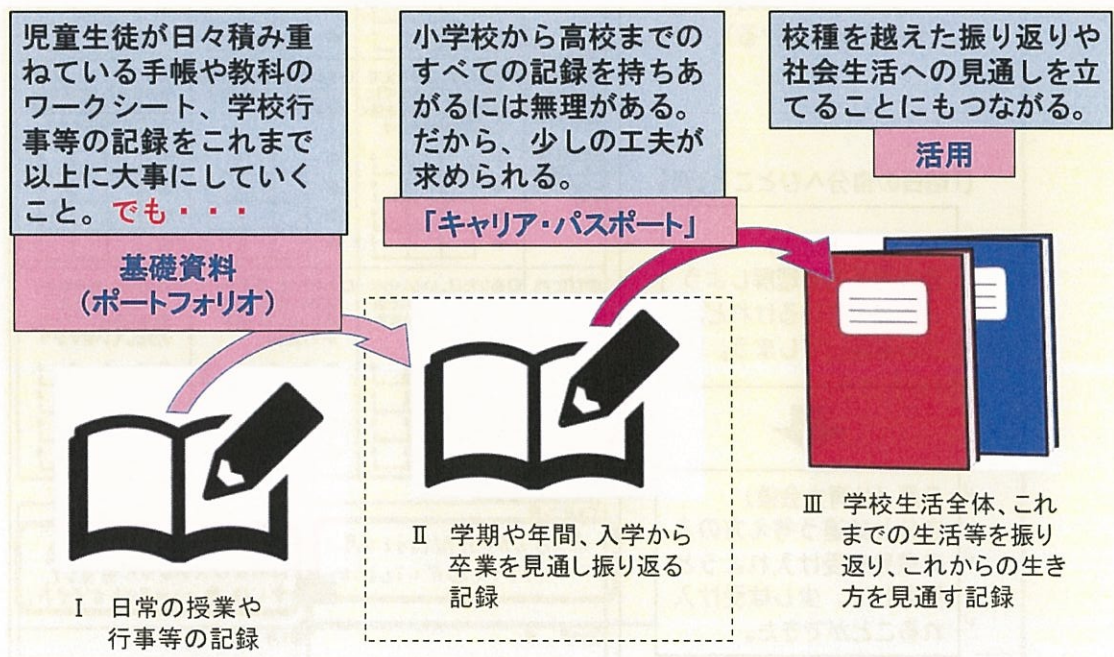
Q 2 「キャリア・パスポート」の目的は何ですか？

子供たちにとっては、小学校から高校を通じて、自分の学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるものです。また、教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に役立てるものです。

あくまでも子供たちを成長させるための手段であり、「キャリア・パスポート」に記入すること自体が目的ではないことに留意しましょう。

Q 3 「キャリア・パスポート」のポイントは、何ですか？

- 児童生徒自らが記録し、学期、学年、入学から卒業までの学習を見通し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする
- 学校生活全体及び家庭、地域における学びを含む内容とする
- 学年、校種を越えて持ち上ることができるものとする
- 大人（家族や教師、地域住民等）が対話的に関わることができるものとする
- 詳しい説明がなくても児童生徒が記述できるものとする



「キャリア・パスポート」の実践例を紹介します。

- 天草市立牛深東中学校では、平成30年度から2年間、国立教育政策研究所教育課程研究指定校（特別活動）等を受け、研究の視点の一つに「キャリア・パスポート」を掲げ、取り組んでいます。以下に、その一部（自己評価シートの活用）を紹介します。

自己評価シートの活用

自己評価シートの評価項目は、本研究の「つきたい資質・能力」の各項目の文頭に「あなたは」をつけ、文末を質問形式にして作成した。

【実施時期】

- ①4月(学年始め)
- ②5月(体育大会終了後)
- ③10月(文化発表会終了後)
- ④2月(学期終わり)

【記入方法】

- ・4段階評価で自己評価し、コメントを書く。
- ・9つの項目の中で、自分が最もつきたい力に印をつける。→途中で、変更も可（その際は、最初とは違う色で印をつける）。

【「明日の自分へひとこと」例】

4月(学年始め)
違う考え方も理解しようとは思っているけれど、つい否定してしまう。

5月(体育大会後)
自分とは違う考え方の人の意見も受け入れようと努力して、少しは受け入れることができました。

	人間関係形成	社会参画	自己実現
知識及び技能 (何を知っているか、何ができるか)	人それぞれ、考え方や感じ方が違うということを知っている。	話し合いの仕方、合意形成の仕方を知っている。	自分のよさ(強み)を知っている。
思考力、判断力、表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	違う考えであっても、否定せずに最後までしっかりと聴くことができる。	集団の課題に気づくことができる。	いろいろな考えや立場の人の意見を生かして、意思決定をすることができる。
学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)	いろいろな考えや立場の人と協力しようとすることができる。	行事やV・S活動に積極的に取り組もうとしている。(貢献)	自分のよりよい生き方のために、進路を見通して努力しようとしている。

気づき・考え・実行する自己評価シート ()年()号()

1 できない 2 あまりできない 3 だいたいできる 4 できる

天草市立牛深東中学校

	人間関係形成	社会参画	自己実現
知識及び技能 (何を知っているか、何ができるか)	○あなたは、人それぞれ、考え方や感じ方が違うということを知っていますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4	○あなたは、話し合いの仕方、合意形成の仕方を知っていますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4	○あなたは、自分のよさ(強み)を知っていますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4
思考力、判断力、表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	●あなたは、違う考えであっても、否定せずに最後までしっかりと聴くことができますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4	○あなたは、集団の課題に気づくことができますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4	○あなたは、いろいろな考えや立場の人の意見を生かして、意思決定をすることができますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4
学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)	○あなたは、いろいろな考えや立場の人と協力しようとしていますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4	○あなたは、行事やV・S活動に積極的に取り組もうとしていますか？(貢献) ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4	○あなたは、自分のよりよい生き方のために、進路を見通して努力しようとしていますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4

明日の自分へひとこと

①4月 23日

違う考え方も理解しようとは思っているけれど、つい否定してしまうが、

③10月 日

②5月 23日

自分とは違う考え方の人の意見も受け入れようと努力して、少しは受け入れることができました。

④1月 日

重点4 安心と信頼にあふれ、高め合う学級をつくりましょう

1 本重点の概要

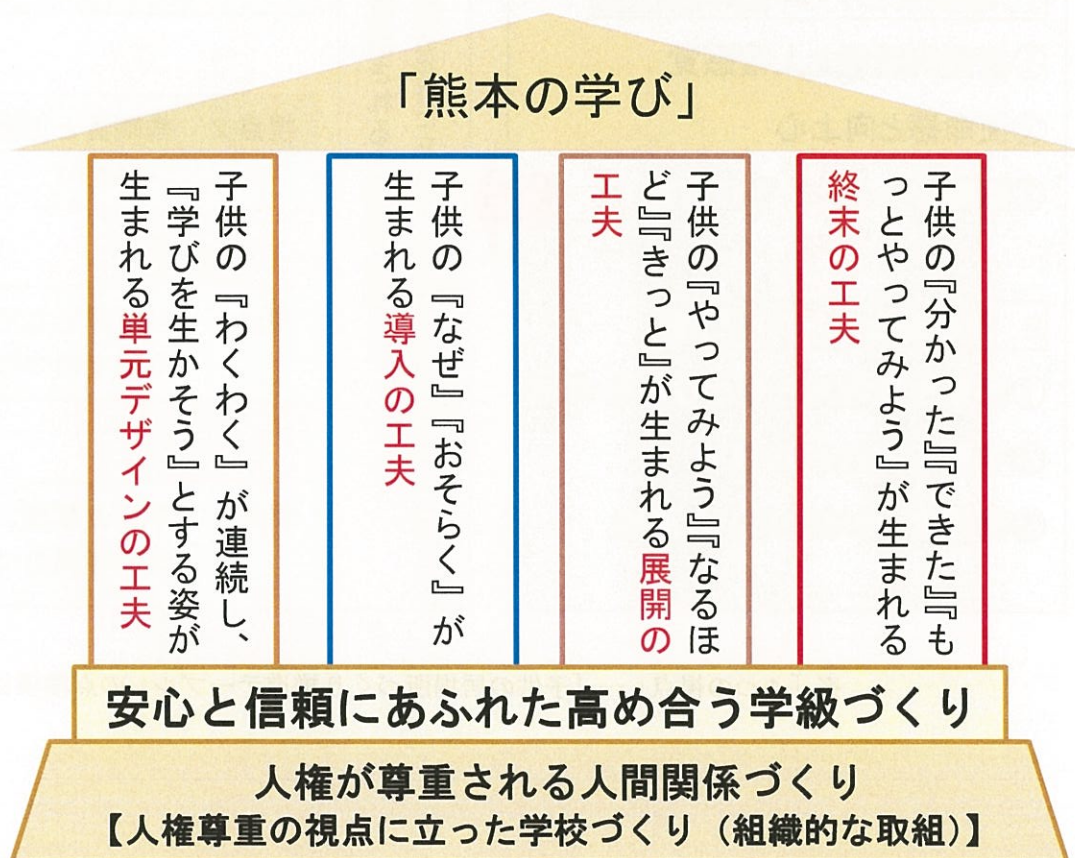
- 「熊本の学び」総合構想会議では、以下のような意見が出されました。

- ・すべての子供たちの質の高い学びのためには「学級づくり」が大切である。
- ・一定の学習規律の中で、基礎基本が定着し、それを活用して様々な日常の事象を解決する、もしくは解決したいと思うような授業づくりを、これまでの熊本の授業づくりでも目指してきた。
- ・様々な学習活動を行う学習の土台として、学級づくりによる支持的風土の醸成が重要である。 など

- 新学習指導要領解説総則編においては、「学習や生活の基盤として、教師と児童生徒との信頼関係及び児童生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。」と示されています。

ここでは、学級経営という言葉が意味する教育活動の本質的な部分や、熊本の学びで目指したい具体的な子供たちの姿や取組の例を紹介します。

学級づくりと「熊本の学び」のイメージ図

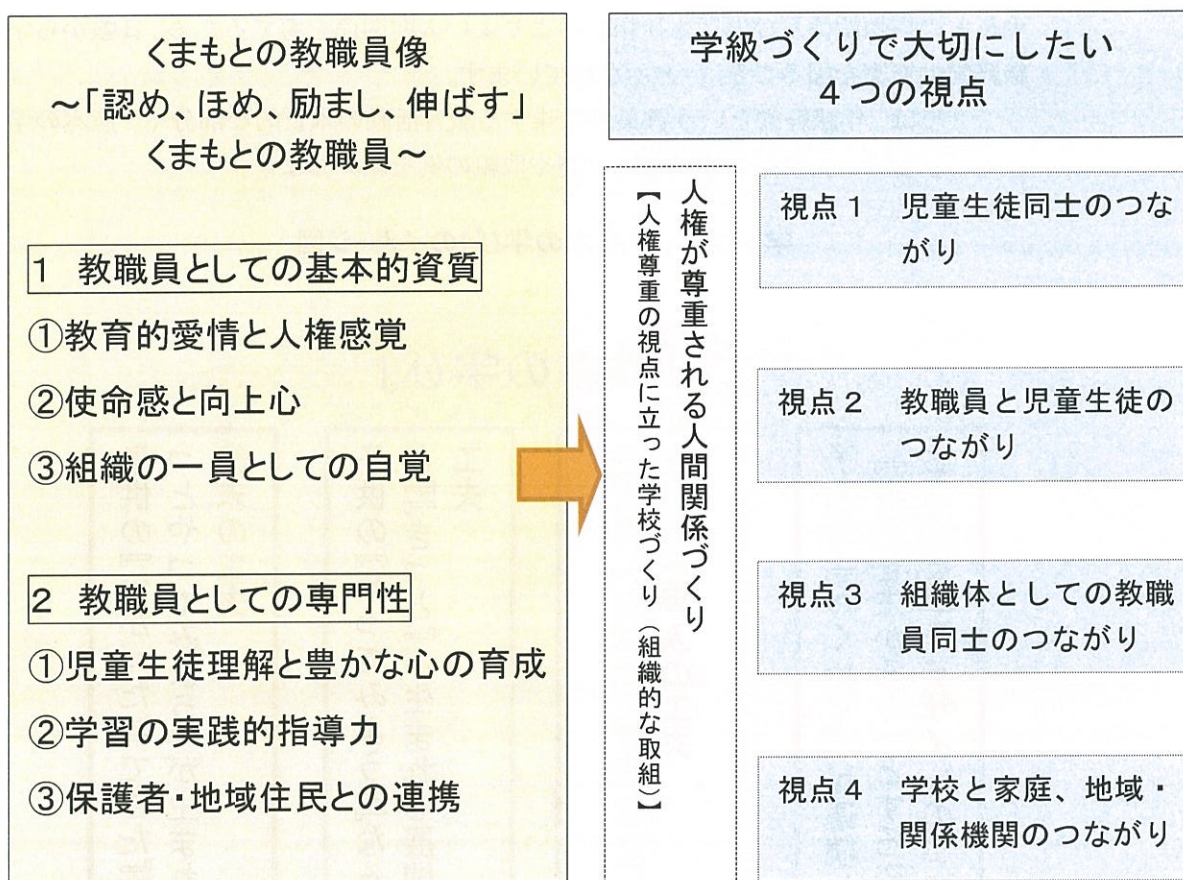


2 学級づくりで大切にしたいこと

- 学級経営の好事例のノウハウ等は、これまでも本県の先輩教師等から脈々と受け継がれていますが、好事例の根底には、教育活動を進める上での教師の本質的な姿勢や考え方があります。

ここでは、充実した学級経営を行っている教師が意識的に実践していることや、無意識に心がけていることは何かを整理しています。

- また、本県には、平成17年に「くまもとの教職員像～『認め、ほめ、励まし、伸ばす』くまもとの教職員～」として、教職員の基本的な行動指標が示されています。この「くまもとの教職員像」を基に、充実した学級経営を行っている教師が普段心がけていることを以下の4つの視点で整理し、「学級経営における熊本の教師の心がけ10か条」として示しています。



※「4つの視点」…「子供の居場所づくり推進テーブル」の点検項目

安心と信頼にあふれ、高め合う学級づくりに向けた 熊本の教師の心がけ 10か条

視点1 児童生徒同士のつながり（「子供」と「子供」）

① まずはオープンマインド

ソーシャルスキルトレーニング等の手法を授業に取り入れ、子供たちの笑顔が絶えない教室の雰囲気づくりに努めましょう。

② みんなちがって、みんないい

子供たちの失敗や間違いを認めたり、考えの違いを大切にしたりする授業づくりや言葉かけを意識しましょう。

③ 授業は全員参加・全員活躍

教材・教具や授業展開を工夫し、すべての子供が学習活動に参加し活躍できるようにしましょう。

④ ハードルはチャンス

一人では解決困難な課題を与えましょう。教え合ったり、助け合ったりする必然性が生まれ、子供同士のつながりが強固になります。

視点2 教職員と児童生徒のつながり（「教師」と「子供」）

⑤ 子供の「よさ」を見付ける

子供一人一人の言動をよく観察し、一人一人のよさを様々な角度から見付けましょう。わずかな成長や、その子が持つよさに気付く目を養いましょう。

⑥ 自ら示す「生き方モデル」

子供たちに指導したことと自身の言動に食い違いがないようにし、生き方で大事なことは、言葉だけでなく、自身の姿で語ることができるようにしましょう。

⑦ 評価はタイムリーに

子供一人一人のよさや頑張りを積極的に認め・ほめ、常に「見守っているよ」、「応援しているよ」という教師の気持ちが伝わるようにしましょう。

視点3 組織体としての教職員同士のつながり（「教師」と「教師」）

⑧ 学校は組織体

話し合っただけの指導内容は、みんなで意識をそろえて実践しましょう。子供たちへの指導は、担任一人だけでなく全職員で一致した指導を行いましょ。

⑨ 風通しのよい職場

授業の成功や失敗、学級づくりの悩み等を職員室で語り合いましょ。学級経営のヒントは、隣のクラスの実践から見付かります。

視点4 学校と家庭、地域・関係機関のつながり（「学校」と「家庭、地域・関係機関」）

⑩ 保護者・地域は子育てのパートナー

「こうなってほしい」という願いや思いを共有し、それぞれにしかできないことを明確にし、互いに協働・連携して、熊本の未来を創る子供を育てましょ。

コラム 【子供との関係に悩んだとき】

学級集団の捉え方

学級には、個性や考え方の異なる子供たちが学級の枠組みにおり、そこに、また子供たちとは個性の異なる教師が存在します。そのような異質な集団の中で、一人の教師が自身の考え方や価値観で全ての子供を無理やり枠組みに納めようとする、一人一人の子供が持つよさや、その子が何かしら学級に貢献していることが見えなくなることがあります。そればかりか、教師の考え方や指導方針に合わない姿ばかりが見えてしまい、「褒める」どころか「叱る」ばかりになってしまいがちです。

資質・能力は育てられても、個性そのものはその子が持って生まれたものです。教師の型にはめるために、その子の個性を整えるのではなく、むしろ個性を生かしながら、その子が何かしら集団の中で貢献しているプラスの部分積極的に見つけ、その子の個性が学級集団の中で伸びるように仕組むことが大切です。

「当たり前」の中にほめるヒント

子供のよさや頑張りを見えなくするのは、大人の目線から見た「当たり前」という意識です。授業中、教師や友達の話を聞いている姿、当番活動をしている姿、友達と会話をしている姿など、「当たり前」の中には、一人一人の子供のよさや頑張りを見える要素、ほめる要素がたくさんあります。そのような見方していると、毎朝学校に登校し教室に入るとのことさえも、認める、ほめるに値することかもしれません。見方を変えて、「当たり前」のことを「頑張っている」「誰かの役に立っている」という視点で捉え、「当たり前」がいかに素晴らしい行為であるか、しっかり価値付け子供たちと共有することが大切です。

コミュニケーション抜きに信頼関係は深まらない

学級の人数が多ければ、1日のうちに全く会話をしなかった子供が出てくるかもしれません。日常的にコミュニケーションをとっていないことには、信頼関係が深まるはずがありません。一方で、コミュニケーションをとるタイミングが注意や叱ることばかりになっているとしたら、信頼関係が深まるどころか、教師への不満、不信感ばかりが積もり、関係は悪化の一途をたどります。

そこで、1日の終わりにどの子と話をしたか、話をしていない子はだれか、必ず振り返るようにしましょう。もし、全く話をしていない子がいれば、もしくはそのようなきっかけづくりが難しければ、その子と会話する場面を意図的・計画的につくる必要があります。

【例1】 コミュニケーションがとれていない子には、教室後方の教具を持ってこようようお願いする等、ちょっとした頼み事を意図的につくりましょう。その際、「ありがとう、あなたのおかげでみんなが助かったよ。」等と感謝の意をしっかり伝えましょう。

【例2】 朝の挨拶で、一人一人に声をかけましょう。短時間でできることで、子供たちの表情等から、様子の変化に気が付きます。

教師の思いや考えを伝える前に、子供の気持ちを理解することが先

教育活動の中で子供を叱る場面が必ずでてきます。その時に、自分の思いや考えを一方向的に伝えてはいないでしょうか？ 子供の行為には、必ずその子なりの考えや理由があります。それを理解せずして教師の思いや考えを伝えても、子供が自分の行為を反省することはありません。

人は、自分の気持ちを理解してくれる人には好感を持つものです。「つらかったね」「大変だったね」等とまずは子供の言い分をしっかりと聞き、気持ちを理解する言葉をかけましょう。そして、子供が心を開いたとき、そのタイミングを逃さず伝えるべきことを伝えましょう。

子供に考えさせる

教師の考えや思いを長々と伝えても、子供の心には響かないことがあります。考え行動するのは子供たちです。授業と同じで、大事なことは教師が説話するのではなく、「なぜ、〇〇をしたのか」「何が悪かったのか」「どうしたらよかったのか」「これから、どうしたらいいのか」等と子供に問いかけて、子供から言わせましょう。教師の思いや考えを一方向的に伝えるのではなく、子供に考えさせ自覚するように導くことが大切です。

行為の変容を求めたら、必ず評価を

指示だけ、叱るだけで、その後の子供の変容を見えていますか？ 子供のわずかな変化（行動・表情）も見逃さず、その子がしている、もしくはしようとしている姿を認め、ほめることが大切です。これは「常にあなたのことを見ている」「あなたに関心がある」という教師のメッセージをその子に届け、存在意義を認めることでもあり、子供との信頼関係が深まるとともに、学級集団に貢献する子供を育てることにもつながります。

【学級経営と学力の関係】

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書から

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査において、児童生徒質問紙と学力のクロス分析が行われています。この分析では、学級経営に係る以下の回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向があるという結果が出ています。

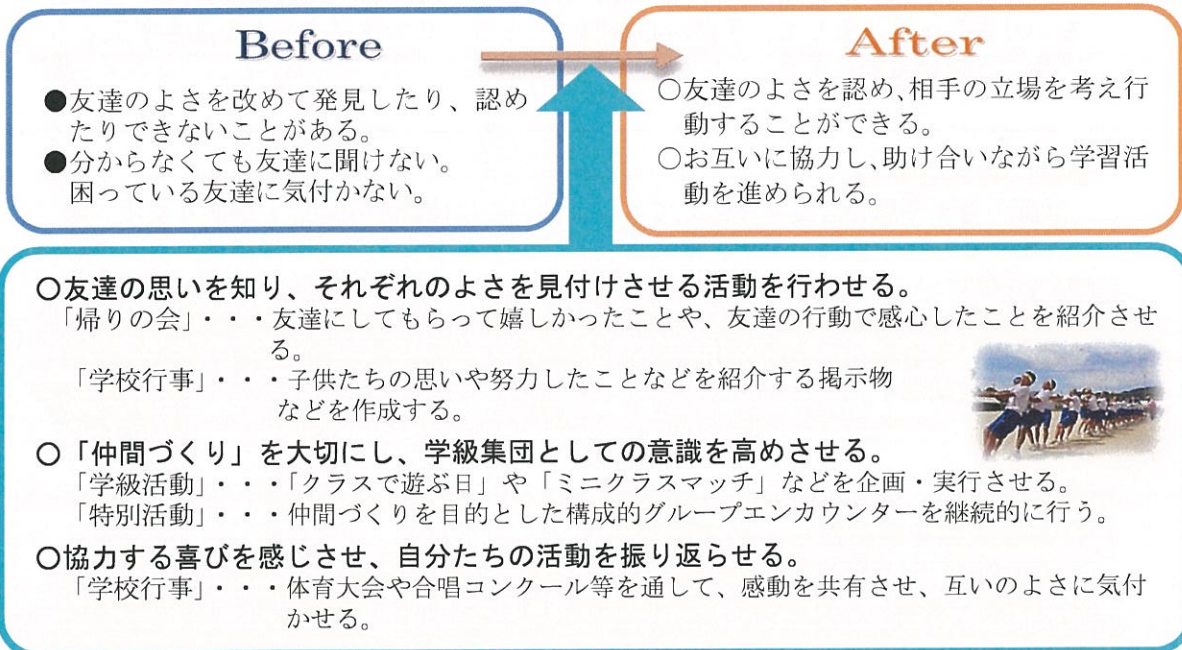
- 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- 学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある
- 学校に行くのは楽しいと思う
- 学校のきまり〔規則〕を守っている

これらの調査結果からも、学級経営と学力の相関関係が大きいことが分かります。

3 「熊本の学び」で目指したい具体的な子供の姿や取組の例

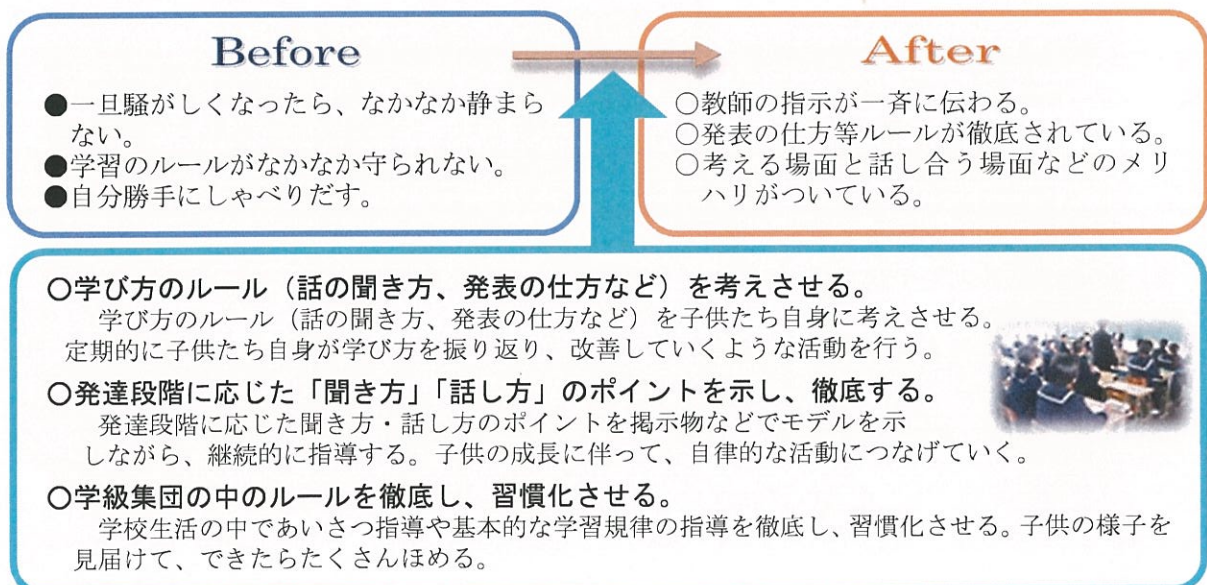
友達のをさを認め、信頼し助けあえる子供

自分一人で学ぶだけでなく、他者と協力し合いながら学習を進めることで、学びは深まっています。一人一人の個性が認められ安心できる学級、互いを信頼し協働できる支持的風土づくりが授業づくりには欠かせません。



場面に応じた行動ができ、学習のルールが守れる子供

教室の中には、学習のルールが必要です。児童生徒が学習のルールを意識することで、学習効率が高まり、安心感のある学級がつくられます。発達段階に応じた学習規律を徹底し、メリハリのある授業を展開することが大切です。



相手の話を受け止め、自分の考えを発信できる子供

「熊本の学び」では、自分なりの考えをもち、それを友達のと比較したり、参考にしたりして、自分の考えを深め、練り上げ、発信できる子供たちの育成を目指します。そのような子供が育つことにより、更に深い学びを実現することができます。

Before

- 話を聞いてはいるが、考えながら聞くことができず、意見を求められても何を言えればいいのかわからない。
- 「同じ意見です。」「分かりました。」など、パターン化された言葉が飛び交う。
- 限られた子供たちだけが発言し、それらの意見により授業が進んでいく。

After

- 友達の話聞きながら、自分の考えと比べたり、自分の考えを補強したりして受け止めている。
- 話し合う活動を通じて学びを深めたり、学習を広げたりする。
- 自分なりの方法で考えを発表したり、書いたりして発信している。

○課題に対してクラスの全員に、自分なりの意見をもたせる。

学び合いの場面等では、自分の考えを持つ段階→友達の見解と比較する段階→友達の見解からさらに練り上げる段階などの過程を意識して、全員が意見をもてるように配慮する。

○子供たちの意見を比較させたり、分類させたりして、自分の意見を深めさせる。

「2つの意見で同じところはどこかな」、「他の考え方はないかな」等の発問で、子供たちの思考を揺さぶり、自分の考えと比較させ深めさせる。

○教師自身が一人一人の意見を大切に示す姿勢を示す。

発言しない子供にも配慮し適切な支援を行うとともに、それぞれの意見を認め励ます声かけを行う。



意欲や向上心を持ち、高め合いながら学ぶ子供

学ぶことに対する意欲や向上心は、生涯求められるものです。学ぶことの楽しさを感じることができる授業づくりを進めるとともに、子供たちの意欲や向上心を継続させ、高めるような手立てを仕組んでいくことも大切です。

Before

- 席に着き、静かにはしているものの意欲的に動くことがない。
- 自分の意見を発表したり書いたりすることが少ない。

After

- 分からないことや疑問などを、たずねたり調べたりして解決しようとする。
- 目標をもって意欲的に学習し、学んだことを生活や学習に生かす。

○学習のゴールを明確にし、目標をもって学習に臨む姿勢を育てる。

単元計画や単元のゴールの姿を具体的に示し、子供たちが目標をもって意欲的に学習し、実生活につながる授業づくりを進める。

○子供のがんばりやつぶやきを逃さず、タイムリーな評価を行う。

子供たちの日々の姿やつぶやきを大切に、言葉かけを行う。できたことの喜びやほめられたことの心地よさを感じさせることにより、子供たちの意欲や向上心を高め、伸ばしていく。



【コラム】

グローバル社会を豊かにたくましく生きていく力を！

～「英語教育日本一」を目指して～

グローバル化の急速な進展の中、外国語で多様な人々とコミュニケーションを図ることができる能力は、子供たちが将来どのような職業に就くとしても、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定されます。

また、語学力・コミュニケーション能力の他にも、主体性やチャレンジ精神、協調性・柔軟性、課題発見・解決能力、異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー等も大切であり、このような資質・能力は、英語の授業のみならず様々な教育活動を通して育成していくことが大切です。

本県では、次のような子供たちの姿を目指し、「熊本の学び」による日々の授業の充実とともに「英語教育日本一」の実現に向けた取組を進め、これからのグローバルな社会を子供たちが豊かにたくましく生きていくための教育を推進していきます。

(1) 目指す子供の姿

「自分の住んでいる地域や郷土熊本に誇りをもち、英語で発信することができる児童生徒」

■ 指標

CEFR A1 レベル（英検 3 級）相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合の向上

※現状

年度	H28	H29	H30
熊本県	26.3%	36.3%	40.8%
全国平均	36.1%	40.7%	42.6%

(2) 県教育委員会の取組

「英語教育日本一」の実現に向け、県教育委員会では、主に次のような取組を行っていきます。

① 日常の英語授業の充実に向けて

■ 先生方の指導力向上に向けた研修会の実施

■ 「英語授業づくりの 10 のポイント」を活用した授業実践 ※県教委 HP に掲載

【例】 Point 2 年間を通したパフォーマンステストの計画と実施
Point 4 単元目標の到達に向けた本時の目標の設定 など



② 子供たちの英検等への積極的な挑戦を支援

■ 外部検定試験への積極的な挑戦を支援するための受験料補助

③ 異文化理解・異文化交流活動の促進

■ ALT との異文化交流体験活動「肥後っ子わくわくイングリッシュキャンプ」

④ 郷土を愛し、郷土に誇りを持つ心の醸成

■ 道徳教育用郷土資料「熊本の心」や平成 28 年熊本地震関連教材「つなぐ～熊本の明日へ～」の活用促進

新学習指導要領（小学校）で示されたプログラミング教育の推進

- 小学校の新学習指導要領で示された「プログラミング教育」への取り組みが求められています。学習の基盤となる「情報活用能力」の育成に向けて、計画的に取り組んでいきましょう。

▶情報活用能力＝“学習の基盤”となる資質・能力

2020年度から全面実施される小学校学習指導要領の総則には、以下の点が示されています。

- 資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点に基づき育成されるよう改善
- 言語活動や体験活動、ICT等を活用した学習活動等を充実するよう改善するとともに情報手段の基本的な操作の習得やプログラミング教育を新たに位置付け

▶プログラミング的思考とは

知識・技能

身近な生活でコンピュータが活用されていることや問題の解決には必要な手順があることに気付くこと

思考力・判断力・表現力等

発達の段階に即して、**プログラミング的思考**を育成すること

学びに向かう力・人間性等

発達の段階に即して、コンピュータの働きをよりよい人生や社会づくりに活かそうとする態度を養うこと

プログラミング的思考

自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのかといったことを論理的に考えていく力

▶実践事例の選定・カリキュラム作成

各学年の年間計画に位置付けを！

『小学校プログラミング教育の手引』及び「小学校を中心としたプログラミング教育ポータルサイト」には、様々な実践事例が豊富に掲載されています。2020年度に向け、実践可能な事例を選定して、各教科・領域における年間計画に位置付けましょう。



『小学校プログラミング教育の手引（第二版）』



『小学校を中心としたプログラミング教育ポータルサイト』
<https://mirai-no-manabi.jp/>

A 学習指導要領に例示されている単元等で実施するもの

B 学習指導要領に例示されていないが、学習指導要領に示される各教科等の内容を指導する中で実施するもの

C 教育課程内で各教科等とは別に実施するもの

D クラブ活動など、特定の児童を対象として、教育課程内で実施するもの

E 学校を会場とするが、教育課程外のもの

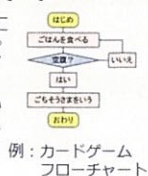
F 学校外でのプログラミングの学習機会

▶プログラミング教育の教材

授業などで扱う教材は大きく分けて3種類あります。※ビジュアル言語系とロボット系の組合せもあります。

アンプラグド系

PC等を使わずに学ぶもので、パズルやカード、身体などを用いて学ぶことができる教材



ビジュアル言語系

図形や命令の書かれたアイコンやブロックなどを操作することでプログラミングができる言語



例：スクラッチビスケット

ロボット系

プログラムすることによって、実際にロボット等を操作できる教材



例：アーテックロボアルディーノ

4

自らの学びの姿を知り、次の学びに向かう熊本の子供たちに！

～子供と教師のための効果的な学力向上検証改善サイクルの確立～

本章の概略

- 本県は、独自の評価問題「ゆうチャレンジ」を開発し、平成15年度から熊本県学力調査（以下、「県学力調査」という。）として実施してきました。この県学力調査は、基礎的・基本的な知識及び技能とともに、学習意欲や思考力・判断力・表現力等までを問う評価問題と、児童生徒及び教師の学力向上に向けた取組状況を把握する質問紙調査で構成されており、平成19年度の全国学力・学習状況調査の開始に先駆けて行った歴史と実績をもっています。
- 平成31年4月の「熊本の学びの提言」では、県学力調査について、「調査問題そのものが授業改善の参考になる」、「校内研究の取組の検証を行う一つの指標となる」、「小学校第3学年から実施されており、各市町村教育委員会の学力向上対策を早い時期から検証できる」など、個々の教師、学校、行政のそれぞれの立場に大きく貢献していることが成果としてあげられました。その上で、「採点の客観的妥当性」、「一人一人の児童生徒のより詳細な課題の把握」、「調査問題を基にした課題克服のための時間確保」が、今後の課題として発展的に指摘されています。
- このような県学力調査に対するこれまでの成果を踏まえ、本章では、上記の課題の発展的解決に向け、新たに開発した「熊本県学力・学習状況調査」について、その実施の意図及び活用する方法について整理をします。

熊本県学力・学習状況調査実施の意図

- 熊本県学力・学習状況調査を実施する意図は次のとおりです。
 - ・児童生徒：自身の学びを振り返り、次の学びに向かうための「道しるべ」とする。
 - ・学校（教師）：教育指導の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ・教育委員会：教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- このように、児童生徒にとっては、自身の状況を的確に把握し、次の学びに向かうための道しるべとなり、学校および行政にとっては、児童生徒の学力を保障するための継続的な検証改善サイクルを確立するための起点となるのが熊本県学力・学習状況調査です。
- このような視座に立った時、調査結果はこれまで以上にきめ細かに示されるとともに、そのデータは、より客観的で信頼できるものでなければなりません。そして、教師は、新しい熊本県学力・学習状況調査により生み出された時間と提供された資料を基に、今、目の前にいる児童生徒の課題に応じた最適な授業改善及び課題克服の取組に注力できるようになります。
- そこで本章では、基本方針「子供と教師のための効果的な学力向上検証改善サイク

ルの確立」に基づき、次の2点を重点として、各学校が取り組む上で参考となるよう、それぞれを四つのステップで説明します。以下、その具体的な内容を述べていきます。

重点1 子供たちの課題克服に向けた教師の授業（単元）デザインにつなげましょう

- 実態把握及び評価（Check）は、結果を信頼性のあるものとするため、同じ採点基準で採点を行い、調査結果を客観的な根拠資料として提供します。また、質問紙調査を同時に行い、子供たちの学習状況を学習習慣や生活習慣との相関から、より詳細に捉えることができる県学力・学習状況調査を目指していきます。
- この県学力・学習状況調査の実施後に提供される詳細な分析資料から、教師は児童生徒の課題解決のために、「何を学ぶとよいか」に加え、「どのように学ぶとよいか」までも併せて指導することが可能となります。学校総体で分析（Action）し、指導計画に位置付け（Plan）ていくことで、児童生徒に必要な資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を行っていく（Do）ことが可能となります。
- 学校総体でよりよい授業（単元）をデザインするためのPDCAサイクルを確立することによって、子供たちが自分の学びの姿を知り、日々たゆまず、自ら学び続ける「熊本の学び」を支えることができます。

ステップ① 熊本県学力・学習状況調査の実施（Check）

質問紙調査も同時に実施し、一人一人の学習状況を明らかにする。

ステップ② 結果を基に実態把握・分析（Action）

全体の傾向等、必要な情報を選んで分析し、実態を把握する。

ステップ③ 目標及び授業（単元）のデザインの立案（Plan）

分析から成果と課題を見出し、実態に応じたよりよい授業（単元）をデザインする。

ステップ④ 授業（単元）のデザインを基にプラン実行（Do）

Web上のプリント等を活用し、クラスだけでなく個人の課題克服も目指す。

ステップ① 熊本県学力・学習状況調査の実施

○ 児童生徒の課題克服に注力する。

教師が、調査実施後の課題克服に注力できるよう、一括した採点、入力、分析等を可能にしました。このことで、学力・学習状況が客観的に把握でき信頼性が高まることが期待できます。学力調査に加えて、児童生徒がこれまでの学び方や生活状況を振り返り、これからの学びに生かせるような質問紙調査を実施し、学力調査との相関関係を確認められるものにしていきます。学力調査と質問紙調査から明らかになった一人一人の学習状況とそれに対する学習へのアドバイスが、個人票で示されます。これらにより明らかになった課題を克服することに注力しましょう。

○ 学習状況を明らかにするための質問紙調査を行う。

質問紙調査では、全国学力・学習状況調査と調査項目を合わせ、同じ内容の質問を児童生徒と教師の両者から調査することで、児童生徒と学校が目指すべき姿を共有することができます。4月から12月までの本年度の児童生徒の意識の変容を確認し、課題解決に向かっているかを確認するとともに、全国学力・学習状況調査の実施教科以外は、年度末までにいかに改善するか、方向性と取組を決定するようにしましょう。

■ 質問紙調査の具体例（児童生徒用）

- ・あなたは、授業で難しい内容を勉強したり、難しい問題に挑戦したりする時間をもっと増やしてほしいと思いますか。

■ 質問紙調査の質問項目例（教師用）

- ・あなたの授業では、児童生徒の理解の状況や習熟の程度に応じて補充的な学習や発展的な学習を行うなど、個に応じた指導の充実が図られていますか。

ステップ② 結果を基に実態把握・分析

○ 授業改善へ向け、様々な視点から達成度を把握する。

民間のノウハウを活用することで、課題がある問題の洗い出しと解答傾向の分析が容易になります。分析結果から課題克服に向けた授業改善が可能となります。

例えば、記述問題で解答例とそのパターンに当てはまる実際の解答を確認することができるようになり、誤答しやすいポイントや傾向を具体的に把握し、実態に即した授業改善に役立てることができます。

○ 分析シートを目的に応じて活用する。

学級、学年、学校と必要な場面に合わせて分析シートを準備することができます。学級の分析シートに「図に表すこと」「図をもとに説明すること」などの学級の課題が明記されれば、日々の授業で必要な学び方を含めて、授業そのものを見つめ直す具体策を検討することができます。領域や観点ごとの結果だけではない、日々の授業で意識すべきポイントが、学校・学年・学級等の必要な範囲で明らかになり、作業の効率を高め、結果分析を授業改善へとつなげやすくなります。



校内研修で

学びの姿を共有

調査問題自体から・・・

- 教師が問題を実際に解き、子供のつまずきを共有
- 自分の授業の中で、どのように具現化するかを決定

調査結果分析から・・・

- 研究テーマ、仮説、手立ての設定
- 結果分析をもとにした研究や仮説の検証

質問紙調査結果分析から・・・

- 学習態度や学び方に関する共通理解
- 学級経営案等への位置付け 等

学校全体で

共通実践

日々の授業実践や研究授業で・・・

- 学校全体の課題を踏まえた共通実践とその検証

特設として・・・

- 帯時間等での課題克服プリントの有効活用
- つまずき克服月間の設定

それぞれの

学級で

日々の授業実践や研究授業で・・・

- 学校全体の課題を踏まえた共通実践、検証
- 「説明する」「図に表す」等、学び方における学級の課題を踏まえた実践
- 日常的に国語辞典を使用する等、基礎基本における学級の課題を踏まえた実践

質問紙調査から・・・

- 「どのように学ぶか」についての自覚化
- 学び合いでの約束決め
- 児童生徒で決定したことを掲示 等

今後、指定校などの先進的な取組の収集・発信により、授業改善の好事例を紹介することで、授業改善の具体的な姿を県全体で共有することができるようになります。また、過去の県学力調査（ゆうチャレンジ）問題等を活用することにより、授業前後の実態把握の充実が期待されます。日々の授業において「どのように学ぶか」を明確にしながらか授業デザインを行うことを推進していきます。

ステップ④ 授業（単元）のデザインを基にプラン実行

○ 一人一人の学習状況に対応した復習問題で課題を克服する。

一人一人のつまずきが明らかになるため、個別の指導の在り方を明確にすることができます。これまで、新学年の新しい担任・担当となった教師は、目の前にいる児童生徒の前学年までのつまずきが見えにくい状況にありました。しかし、個人票及び結果資料等があることにより、焦点化した内容で個別の指導が可能となります。また、家庭とも連携し、つまずきに即した個に応じた家庭学習を推進していくことも可能となります。

○ 学級や学年全体の学習状況に対応した学習プリントを活用する。

学習状況調査の正答率や誤答パターン等から、一人一人への対応だけでなく、学習集団の課題にあった教材を提供することができるようになります。児童生徒自身が自ら課題克服のためにプリント等を活用して取り組めるように、課題克服プリントや Web の活用、時間の確保等の学習環境の充実を図りましょう。必要な内容を選択し、ダウンロードすることで、復習プリントが作成され、プリントアウトするだけですぐに利用が可能となります。



同じ問題に学校全体として取り組むことで、児童生徒が互いに学び合う姿を期待することができます。

○ ステップ③④の例

実践例) 小学校 国語

【出題のねらい】(H28 年度 3 年)

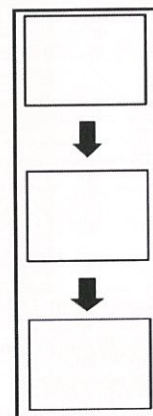
「ボール」「ポール」「ホール」を辞書に出てくる順番に正しく並べかえること。

【指導のポイント】

- ・ 国語辞典に触れる場を 1 時間毎に設定。
- ・ 子供に問題を作成させ、出題させる場を準備する活動。

【取組】

国語の授業で必ず一回は辞書を引く場面を設定します。意味調べも兼ねて、濁音・清音・拗音・促音等の組合せで問うことで、辞書に慣れるだけでなく、語彙指導の充実も図ることができるようになります。



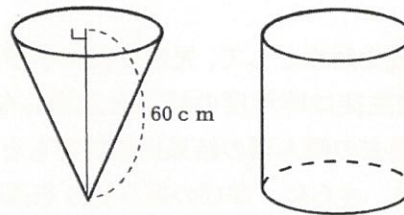
① ボール
② ポール
③ ホール

(6) 次の①から③までの言葉为国語辞典で調べると、どんなじゆん番に出ますか。出てくるじゆんにならべかえましょう。

実践例) 中学校 数学

(7) 下の図は、円すいと円柱の形をした容器です。それぞれの容器の底面は合同な円で、高さは60 cmで等しいことが分かっています。

この円すいの容器いっぱいに入れた水を円柱の容器に移したとき、円柱の容器に入った水の高さは何cmになるか答えなさい。⑩



【出題のねらい】 円柱と円錐の体積の関係について理解していること。

[県全体定着率38.0%]

【指導のポイント】

- ・柱体と錐体の体積の関係を予想し、模型を用いた実験で確かめる活動。
- ・「錐体の体積の3倍が柱体の体積」「柱体の体積の1/3倍が錐体の体積」となることを表現する活動。

【取組】

これまでの柱体と錐体の体積の関係についての授業では、水を使った実験を行ってきましたが、新たに、3色のビーズを使った教材も使用しました。そのことにより、生徒たちは「柱体の体積の1/3が錐体の体積」というイメージをもつことができるようになります。



重点2 子供たちが自らの学びをデザインできるようにしましょう

- 「学び」は、児童生徒一人一人の中にあります。熊本県の全ての子供たちが自分の学びの姿を知り、日々たゆまず、自ら学ぶことを支えるための県学力・学習状況調査を実施します。
- 教師と同様、本調査を起点として、児童生徒の学びにもPDC Aサイクルの確立を促しましょう。児童生徒は昨年度の結果を意識しながら調査問題に取り組みます（Check）。その後、過去の個人票の結果比較等をもとに、教師とともに個の学びを振り返ります（Action）。さらに、学びの振り返りを基に課題克服のための自分の学びの計画を立てます（Plan）。その計画をもとに、家庭学習に自分自身の課題を取り入れたり、個の課題に応じた克服プリント等を活用したりすることへつなげます（Do）。
- 児童生徒が、本調査を起点としたPDC Aサイクルのもとで、自身の学び方や生活を見つめ、自身で課題を解決するよう、自分に合った学び方や学習方法を身に付けていく一連の過程を学びのデザインとします。そうすることで「能動的に学び続ける力」の育成を支えていきます。

ステップ① 熊本県学力・学習状況調査の実施（Check）

学力調査と質問紙調査から一人一人の学習状況を、個人票で示す。

ステップ② 個人票から成果と課題を分析（Action）

経年変化で学習の状況を見つめ、学習や生活の習慣との関連を教師とともに分析する。

ステップ③ 目標及び自ら実行すべきことの計画（Plan）

次の目標を定め、よりよい学び方や生活の仕方を教師とともに考える。

ステップ④ 次の自分の目標へ向け、計画を実行（Do）

目標の実現に向け、Web上のプリント等を活用し、自ら課題克服を目指す。

ステップ① 熊本県学力・学習状況調査の実施

○ 一人一人の学びを見つめ、振り返ることができる個人票

児童生徒が自分自身の課題を把握し、自ら課題を克服しようとするためには、個人の結果を表した個人票の充実が欠かせません。学力調査と質問紙調査から個々の学習状況を明らかにし、個々の学びの成長を可視化し、自ら学びの振り返りを促し、PDCA サイクルで自らの学びをデザインできる県学力・学習状況調査を目指します。

■ 個人票の特徴 ■

- ① 教科別の結果が一覧できる表とグラフで示されます。
- ② 教科別結果は、問題の内容ごとに正答率が示され、達成状況が分かります。苦手部分には、解決の方法や学習のアドバイスが示されます。
- ③ 過去の調査結果との比較ができ、学習状況の推移を見ることができます。
- ④ 学習習慣や生活習慣から日々の生活や学習の課題が示されます。

ステップ②・③ 成果と課題の分析と自ら実行すべきことの計画

○ 経年変化の可視化

昨年度までの結果が分かる個人票により、児童生徒がこれまでの1年間の学習の方法を見つめ直す機会となり、家庭学習などにおける今後の学習方法を考えることができます。学習状況を経年変化で見ること、「来年は・・・」「次の課題は・・・」と具体的な目標をもち、取り組むことにもつながります。教師は、この子供たちの取組のプロセスを認めていきましょう。

オリジナルイラストへ



○ 課題となる問題内容の明確化

領域だけではなく具体的な問題内容での結果が分かる個人票により、自分が努力すべきものが明確になります。問題内容の結果により、児童生徒が克服すべき課題に気付き、課題解決に向けて家庭学習等で取り組むことができるようになります。



○ 学習や生活の習慣の改善

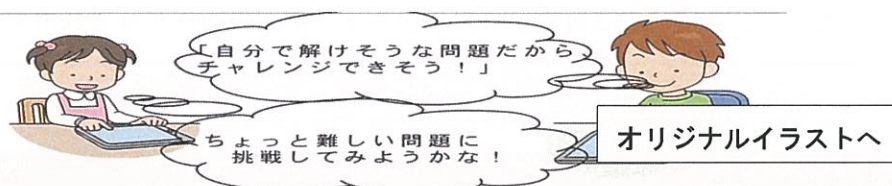
同時に実施する質問紙調査により、実生活の様子との関連が明らかになり、学校生活だけでなく家庭生活を含め、学習や生活習慣の改善を目指すことができます。



ステップ④ 次の自分の目標へ向け、計画の実行

○ 一人一人の学習状況に対応した学習プリントの活用

調査結果から見えた課題を解決するためのプリントが、個々の状況に応じ、Web等を通じて提供されます。それぞれの課題に応じたきめ細かな復習問題が提供されることで、児童生徒自ら課題の解決に向かう等の主体的に学ぶ姿が期待できます。また、十分な定着が見られる児童生徒に対応した難易度の高い問題も提供され、更に力を伸ばすこともできるようになります。個人票の分析を基にした目標設定と学習計画とともに、一人一人の学習状況に対応した課題克服プリントの活用により、児童生徒に「課題を克服する自主学習」という意識を高め、日々の学習習慣や家庭学習をよりよいものへと高めることにつながります。



○ 家庭との連携

個人票や質問紙調査の結果を児童生徒や保護者とともに分析することもできます。三者で、児童生徒の成長を確認したり、学習面や生活面の具体的な課題と改善策を考えたりすることで、これからの児童生徒の学びのデザインを共有できます。また、このことが課題を克服する家庭学習につながります。



○さらには・・・

学校全体として日々の学習習慣や家庭学習をよりよいものへと高めたいときは、個別に、あるいは学年や教科で課題に応じた問題の一覧表や冊子を工夫して作成し、それを使った家庭学習に取り組むこともできます。教師に与えられた課題に取り組むだけの家庭学習から「自分の課題を克服するための自主学習」となり、より主体的な学習ができ、自ら学び続ける児童生徒の育成につながります。



今後の展望～熊本県学力・学習状況調査のより一層の活用 のために～

小学校第3学年から実施する意図

- 本調査を小学校第3学年から実施する意図は、従来の「熊本県学力調査」（ゆうチャレンジ）同様、子供の学力の差が顕著になるとされる9歳（小学校第3学年）から、子供の実態をきめ細かに把握し、できるだけ早い段階から苦手の問題や課題に対して、個に応じた指導を充実させるためです。
- 今回の調査では、児童生徒の個々の学力及び学習の状況を継続的に捉えることが可能となります。このことで、一人一人の子供の状況を「認め、ほめ、励まし、伸ばす」ことがより可能となり、生涯にわたって学びに向かう力を伸ばすことを目指しています。

熊本県学力・学習状況調査のより一層の活用

- 各学校、市町村教育委員会、県教育委員会における、児童生徒一人一人の課題克服の取組の充実及び児童生徒の主体的な学習態度の育成等に資するものとなるよう本調査は実施されます。
- この詳細なデータを有効に活用し、学校はカリキュラム・マネジメントに生かして、学校総体としてどのように取り組むのか、市町村教育委員会は実態に応じた施策構築にどのように生かすかが、今後重要となります。
- また、本調査の実施後に「つまずき克服月間」等、一定の期間を設け、家庭・地域とともに取り組むなどの活用方法も考えられます。
- すべての児童生徒の学びの質を高めるため、基礎的・基本的な知識及び技能を徹底して身に付けさせ、課題解決に向けて能動的に学ぶ熊本の授業づくりの理念のもと、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するものとして本調査を活用した取組がより一層充実することを期待しています。

5

自ら計画を立てて、自ら学ぶ熊本の子供たちに！

～家庭と連携を図りながら、子供たちの学習習慣形成を促す取組の推進～

本章の概略

- これまでの全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の結果から、本県の課題として、「家で自分で計画を立てて勉強すること」^(注1)があげられます。この課題を解決することは、熊本の学びの理念である「能動的に学び続ける力」の育成に不可欠なものです。そのためには、まず、家庭と連携して、学習習慣形成の素地となる環境を整えていくことが大切です。
- また、中学校の学校質問紙調査結果（平成30年4月実施）では、「保護者に対して生徒の家庭学習をうながすような働きかけを行いましたか」^(注2)という質問に対して、本県は全国平均を大きく下回るという調査結果が得られました。各学校で保護者に対して、家庭学習への働きかけをこれまで以上に行っていく必要があります。
- さらに、熊本県子どもの生活に関する実態調査（平成30年3月実施）の結果^(注3)では、小学校5年生の保護者で約3人に1人、中学校2年生の保護者で約4人に3人が「家庭での学習への働きかけがない」という、家庭の関心の低さが課題として浮き彫りになりました。
- そこで、本章では、子供たちの家庭学習習慣の確立に向け、次の二つを重点として、取組の方向性を示します。

重点1 学習習慣形成の素地となる環境づくりをしましょう

◆ 15年間を通した五者の連携の在り方について

- ・ 学習習慣形成の素地となる環境づくり
- ・ それぞれの役割の明確化
- ・ 五者で連携し、育てていく力のイメージ図

重点2 家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習を目指しましょう

◆ 自ら計画を立てて学習できる子供の育成について

- ・ 家庭学習における本県の現状
- ・ 家庭学習のポイント（子供編／学校編／家庭編）
- ・ 家庭学習の学校実践例

(注1) 令和元年度調査では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の質問に対して、小学校68.3%に対し中学校は45.1%と低く、全国と比較しても、小学校で3.2ポイント、中学校では5.3ポイント低い。

(注2) 「当てはまる」と回答した割合が、全国よりも15%以上下回る。

(注3) 「ほとんどない」と回答した割合は、小5で33.2%、中2で74.8%である。

重点1 学習習慣形成の素地となる環境づくりをしましょう

15年間を見通した五者連携の在り方について

(1) 学習習慣形成の素地となる環境づくり

- 生涯にわたって自ら学ぶ子供を育成するためには、幼少期からの様々な経験やたくさんの人との関わりを通して、「認められる」「ほめられる」などの経験を積み重ね、自己肯定感を高めていくことが大切です。そのためには、五者が連携し15年間を見通して、それぞれが必要な関わりを行っていく必要があります。
- 学びに向かう力を高めるには、幼児期には遊びの中で、学齢期には生活・体験、文化体験、自然体験及び社会体験等の様々な体験活動を通して学んでいくことが大切です。いつまでに、どのような力を身に付けさせるのかを五者で共有しましょう。

幼児期までを共有しましょう

これらの幼児期の力が家庭学習習慣の土台になります。

3歳までには	6歳までには
基本的な生活習慣を身に付けた子供	
大人の呼びかけで、健康で安全な生活をつくりだしていけるようになる。	自ら健康で安全な生活をつくりだしていけるようになる。
約束やルールを守る子供	
してよいことと悪いことがあることに気づき、決まりを守るようになる。	決まりの大切さが分かり、進んで守るようになる。
人・もの・自然とふれあい、命を大切にする子供	
自分から周りの人に親しみを持ち、関わるようになる。	自分から周りの人に親しみを持ち、関わりを大切にするようになる。
相手の話をよく聞き、自分の考えや気持ちを話せる子供	
自分の気持ちを言葉などで伝えるようになる。	自分の考えを言葉で伝えたり、工夫して表現したりするようになる。
自分で考え、最後まで取り組む子供	
自分の興味・関心をもったことに取り組むようになる。	自分の興味・関心をもったことに進んで取り組むようになる。

【「新 肥後っ子かがやきプラン」より】

- 学齢期には、視野を広げるために、様々な体験活動に積極的に取り組むことが重要です。そのためには、学校だけではなく、地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育活動を実施し、豊かな体験の充実を図ることが大切になります。現在、熊本県で推進しているコミュニティ・スクールや地域学校協働本部と連携・協働した地域学校協働活動の取組の更なる充実を目指しましょう。

学齢期までを共有しましょう (例①：阿蘇市)

阿蘇市のエンジョイ子育て 阿蘇っ子の育ち

家庭教育はすべての教育の出発点です。子どもが「生きる力」を身につけていく基礎をつくるために重要です。子どもをどう育てていくのか、迷いは誰にでもあります。そこで、参考になればと、発達段階に応じた子どもの育ちの目安を作成しました。

心豊かで郷土を愛するたくましい阿蘇っ子

ASO

家庭での働きかけ・心がけ

ASO

中学校

自主性を認め、見守ろう

<自我の確立>みんなは自分のことをどう思っているだろう？と他人からの評価が気になるります。自分は親の所有物じゃないなど親や大人への反抗期です。

- 社会や学校の決まりを守らせましょう。
- 学校や家庭での自分の役割を果たさせましょう。
- 学習に取り組みやすい環境を整えましょう。
- 進路について一緒に考え、支援したり励ましたりしましょう。
- 主体性を持って「メディア」を選択し判断し発信する力を子どもとも身につけましょう。

小学校4年～6年

認めて、ほめて、受けとめよう

<活動性>夢や希望を持ち、知的好奇心がわいてきます。友だちとのかかわりの重要性が大きくなってくる頃であり、子ども同士の思いや人間関係が難しくなる頃です。

- しっかり対話して信頼できる親子関係を作りましょう。
- 子どもを認め、ほめ、自信を持たせましょう。
- 社会のルールを守らせましょう。
- 積極的に地域の行事や体験活動に参加させましょう。
- 子どもとともに「メディア」の利便性、危険性を学び上手に活用するルールをつくりましょう。

小学校1年～3年

目を見て話して、話を聞こう

<社会性>ギャングエイジとも言われるわんばくな時期です。社会性が育ち外遊びが大好きで、外部との交流が多くなります。

- 家族の一員として家事の手伝いなど、責任を持ってさせましょう。
- 学校でのできごとなどいっぱい聞いてあげましょう。
- 集中して取り組む経験をさせ、なしとげたときは、ほめましょう。
- 自然体験や社会体験の機会を増やしましょう。
- 「メディア」を使用するルールをいっしょに作りましょう。(1日の使用時間、使用場所など)

4～5歳児

あなたは「大切な子なの」と伝えよう

<積極性>「なんで？どうして？」と質問が増え、様々な事に積極的にかかわろうとする姿がみえてきます。

- 「早寝・早起き・朝ごはん」「あいさつ」などの習慣をつけましょう。
- 自然遊びやごっこ遊びなどを通して豊かな感性や好奇心を育みましょう。
- 子どもにできることを見つけ、持続させてさせてみましょう。
- テレビやビデオなどは保護者が選択して時間を決めて見せましょう。

2～3歳児

「あなたのこと大好きよ」言葉と態度で示そう

<自己主張>自己主張が始まります。何でも自分でやりたがり、失敗することも多いですが、自分でしようとする気持ちが大切です。

- 1日3食バランスの良い食事、早寝早起きなどの生活習慣がつくように親がモデルになりましょう。
- できた時や良いことをした時は、見逃さずにほめましょう。
- 悪いこと、危ないことをした時は言葉でしっかり伝えましょう。
- がまんすることも少しずつ教えていきましょう。
- 3歳までは「メディア」の視聴は控え、いっしょに絵本を読んだり戸外で遊んだりしましょう。

0～1歳児

スキンシップで愛情示そう

<情緒の安定>五感をつかさどる神経回路の主なもの完成します。情緒の安定をはかる時期です。子どもたちも「そばにいてね!」と思っています。

- 豊かな表情で語りかけ、だっこや声かけを充分にしましょう。
- 自分でしようとする気持ちを大切にしましょう。
- 食事、睡眠、排泄など生活リズムを作りましょう。
- 授乳中・食事中の「メディア」の使用はやめましょう。

ここでは、「メディア」とは、テレビ、ビデオ、パソコン、携帯電話、スマホ、テレビゲーム、インターネットなどを言います。

- 一人ひとりの育ちの速さは違うもの、あせらずゆったりとした気持ちで、子育てしましょう!!
- 親子の時間を大切にし、家族で子どもの成長をともに喜び合いましょ!!
- 子どもを心育てるためには、「本当に愛されていること」を年齢に関係なく、言葉や態度で伝え続けて、実感させましょう!!
- 普段の子どもの様子をしっかりと把握しておく、目の輝きやちょっとしたしぐさなどで、悩みなにも早めに気づけます。言葉にできない思いに気づいてあげましょう!!
- ネット社会の事件に巻き込まれないために、情報社会のルールやマナーを教えましょう!!

※携帯電話やスマホなどのフィルタリング設定は保護者の義務です!!

平成28年4月改訂 阿蘇市地域教育支援協議会 阿蘇市教育委員会 阿蘇市青少年健全育成市民会議 阿蘇市PTA連絡協議会

「メディア」に費やす「総時間」をコントロールしよう!!

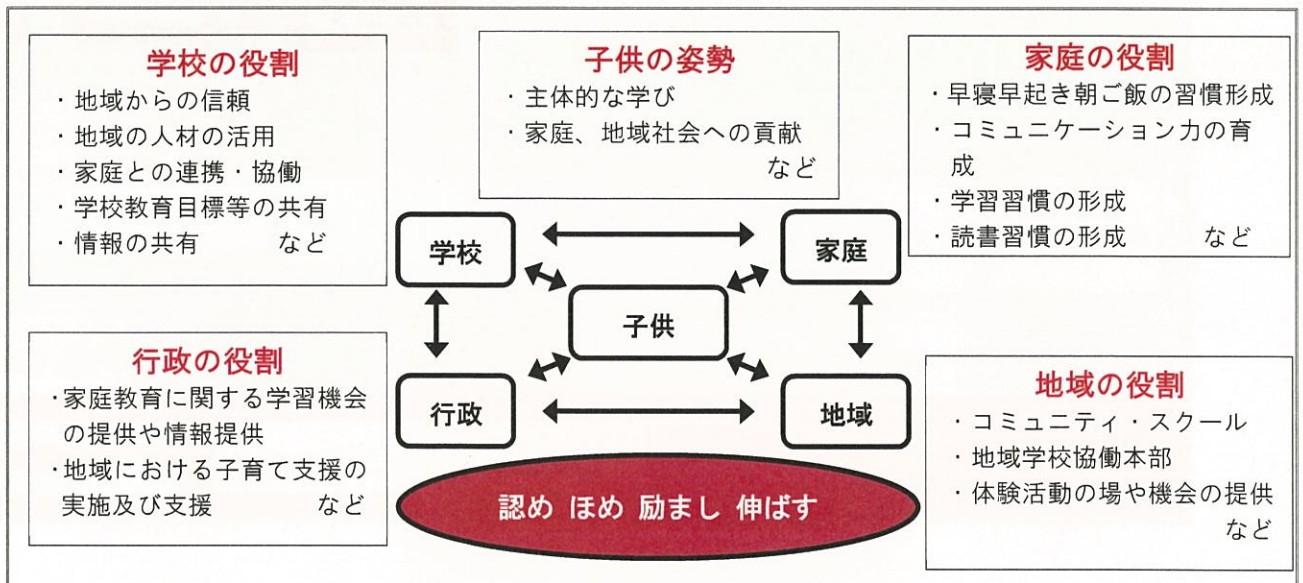
乳幼児に悪影響の「メディア」漬けはやめましょう!!

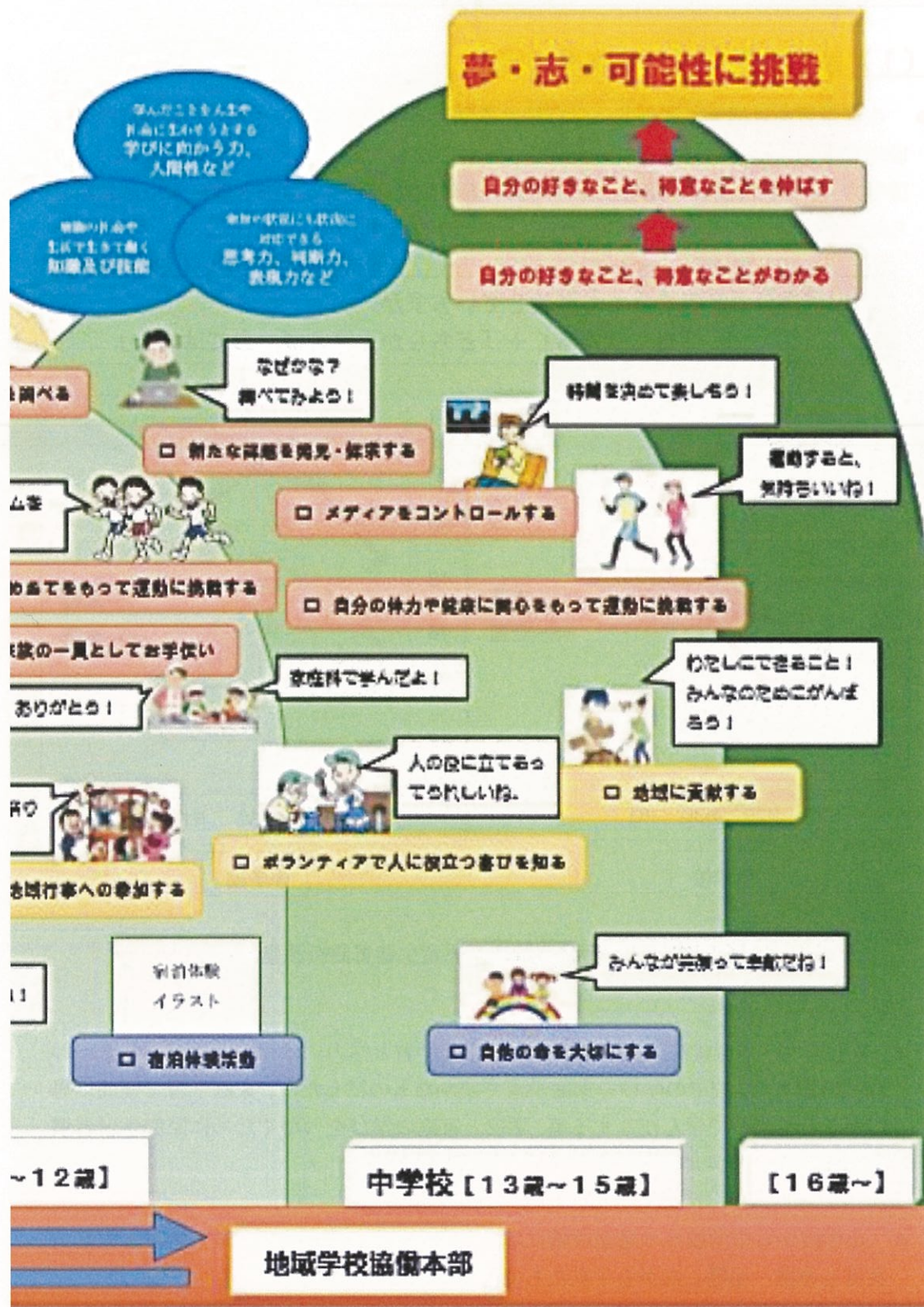
学齢期までを共有しましょう（例②：大津町）



(2) それぞれの役割の明確化

- 生涯にわたって自ら学ぶ子供を育成するためには、子供を中心に据え、五者が連携する必要があります。それぞれが、それぞれの立場で役割を果たし、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」環境づくりに努めましょう。





重点事項2 家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習を目指しましょう

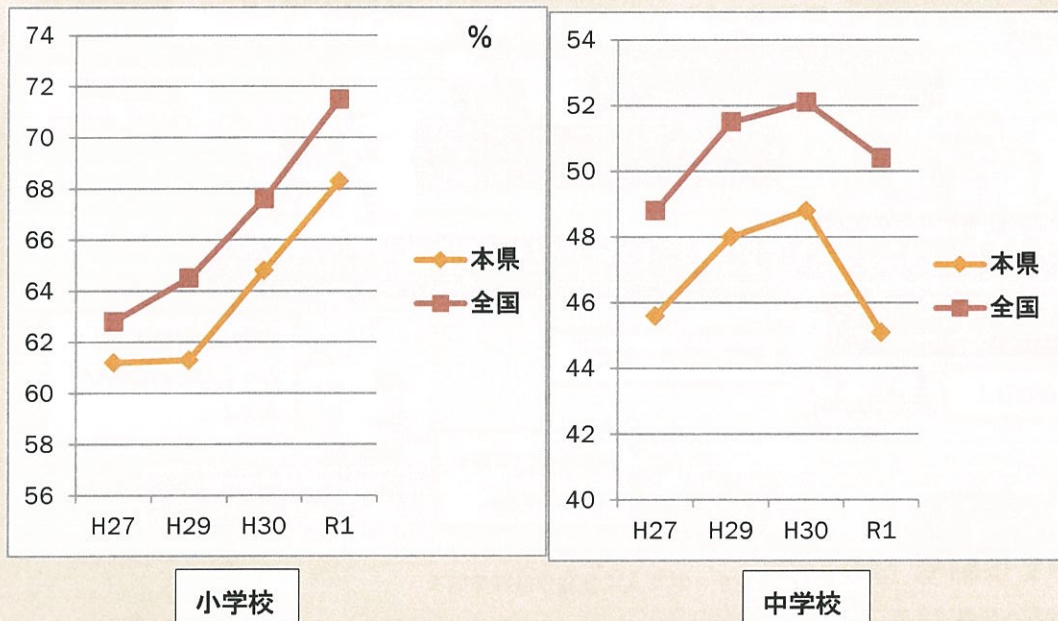
自ら計画を立てて学習できる子供の育成について

(1) 家庭学習における本県の現状

- 生涯学習を見据えて能動的に学び続ける学習者を育成するためには、小学校の早い段階で学習習慣を確立することが重要です。しかしながら、下のグラフのとおり、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査における本県と全国との結果には差が見られ、学習習慣が確立できていないことがわかります。

家で自分で計画を立てて勉強していますか

「当てはまる」+「どちらかと言えば、当てはまる」

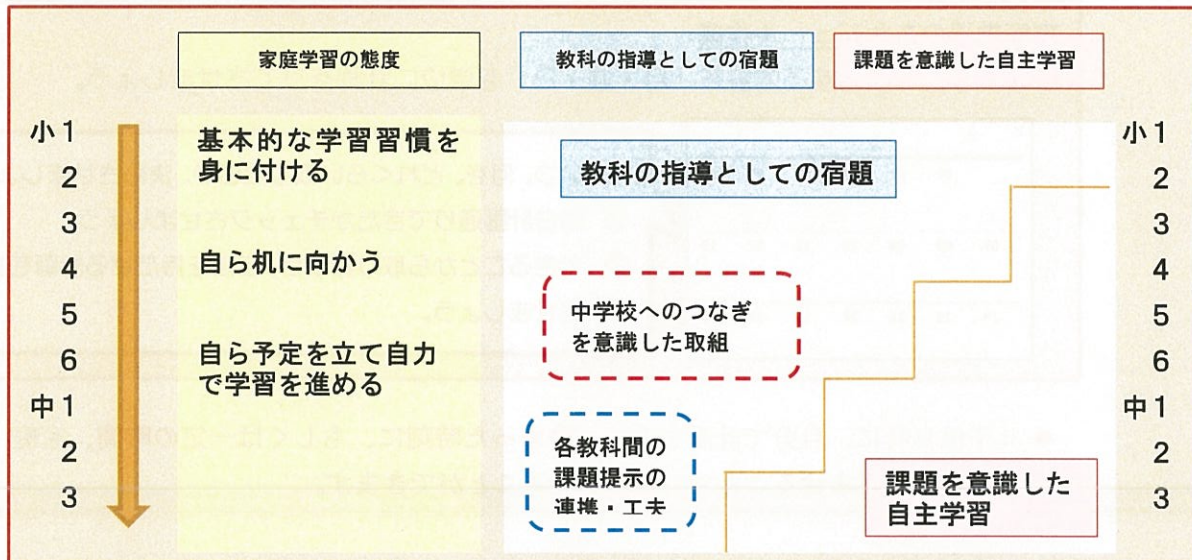


全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より

- 全国学力・学習状況調査の結果等から家庭学習と学力には相関関係があるといわれています。学校での学びを家庭学習で確かなものにしたたり、家庭学習で疑問に思ったことを学校で学んだりする等、学校と家庭の学びをつなぐために家庭学習習慣を形成することが大切です
- 小学校から中学校への発達段階に応じた家庭学習の意義と系統を、学校と家庭が共有し連携・協働しながら子供たちに関わっていきましょう。

- 次の例は、家庭学習について、9年間の系統例です。

【家庭学習の9年間の系統例(イメージ図)】(宇城市学力向上プロジェクト)



- 「いつ、どの課題を、どれくらい取り組むか」について、児童生徒が自分で計画を立てて学習できるように「家庭学習の手引き」等で示すことも重要です。各学校でPTA総会、学級懇談会、家庭訪問等の機会を捉えて手引き等を活用し啓発していきましょう。

【手引きの例】(大津町立室小学校)

1ねんせい かていがくしゅうの すすめかた

めあて
じぶんから すすんで がくしゅうが できるように なりましょう!

《 やくそく 》
◎テレビをけす。
◎しゅくだいと おんどくは かならずする。

《 かんばるごとく 》
◎じぶんから すすんで 学しゅうしましょう。
◎ていねいに かきましょう。

いつ がくしゅう するか ()
どこで がくしゅう するか ()
まいにち 20ぶんくらいは がくしゅうしましょう。

※かようびは てれびや げえむを やめて、ほんを よみましょう。
おうちの ひどと たくさん おはなし しましょう。

おうちの人へ
・テレビを消して きちんと 座らせて 取り組ませてください。
・時間、場所を 親子で 決めてください。
・子どもさんへの励ましの声かけをお願いします。

6年生の 家庭学習の進め方

めあて
高学年として、自分から課題を見つけて自主的に家庭学習に取り組む習慣を身につけましょう! (中学校での学習を意識して、自主学习に取り組もう。)

《 約束 》
◎テレビや音楽を消して、静かな所で、集中して学習しましょう。
◎学習する時間と場所を、決めておきましょう。
◎自分にとって必要な学習を考えて、目的を持って、学習に取り組みましょう。

《 努力すること 》
◎宿題以外に、自主学习や読書にも取り組みましょう。書だけでなく、内容のある学習になるようがんばりましょう。
◎かたよった学習にならないように、いろいろな内容に挑戦しましょう。
◎弱点のこくふくなど、自分に合った(必要な)学習の仕方をつけましょう。
◎文字はていねいに書き、計算もていねいにしましょう。癖はじょうぎで引きましよう。
◎できるだけ、新聞にも目を通してみましょう。
◎目標時間、毎日学習を続けましょう。

いつ学習するか ()
学習する場所 ()

学習目標時間は、宿題と自主学习を合わせて
5年生…60分以上
6年生…70分以上
計画を立ててがんばろう!

※火曜日は、テレビ・ゲーム、スマホ、タブレットでず、読書をしたり、家の人と話したりしましょう。

(2) 家庭学習のポイント1 (子供編)

家庭学習のスケジュール作成

■ 繰り返し学習する内容を「月・週・日」を単位に計画を立てさせましょう。

日	月	火	水	木	金	土
	01	02	03	04	05	06
07	08	09	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20

- ① いつ、何を、どれくらい取り組むか、決めさせましょう。
- ② 毎日計画通りできたかチェックさせましょう。
- ③ できることから取り組みせ、自信を持たせる計画を立てさせましょう。

- 子供自身に、自分で計画を立て、**決まった時刻**に、もしくは**一定の時間**、家庭学習に取り組ませることで、**習慣化**することができます。
- 復習（その日の学習を振り返る・補充する）、予習（これから学習する内容の準備をする）、自分が興味のあることや、「なぜ?」「どうして?」と疑問に思ったことに主体的に取り組ませることも大切です。発達段階に応じて、児童生徒が必要な学習内容を選択できるように、段階的・継続的に取り組ませましょう。

探究的な学びと自主学習の取組

- 1 もっと知りたいこと、伝えたいことなど、自主学習のテーマを設定できるようにしましょう。
 - ・「なぜ?」「どうして?」と疑問に思ったこと。

【例】世界の国旗、地図記号調べ、季節の植物、地域の特産物、魚への付く漢字、テレビのニュースや新聞記事をまとめる、中学校では原子記号、化学式 等

- 2 情報を収集させましょう。
 - ・図書館（図書室）にある本（図鑑）
 - ・身近な自然体験、日常生活体験
 - ・新聞や雑誌、インターネット
 - ・インタビュー等
- 3 集めた情報を分類・整理させましょう。
- 4 伝えたいことや分かったことを絵、図、表等を使ってまとめさせましょう。

(3) 家庭学習のポイント2 (学校編)

- 家庭学習に取り組むたくても何をすればいいか分からなかったり、目的意識がなくやる気がわかなかつたりする児童生徒も少なくありません。子供たちに、「家庭学習ではどのようなことをすればいいか」を具体的にわかりやすく示すことが大切です。その際、家庭学習の取組について保護者と共通理解を図り、共通実践をしていきましょう。

【授業と家庭学習をつなげよう】

- 授業中に教師が、家庭学習につながる声かけをしたり、学習内容等を示したりすることも有効です。
- 子供が、更なる問いをみつけられるような声かけをしましょう。
- 学校で、その日の家庭学習の内容について計画を立てさせることも有効です。

今日は「木へん」の漢字を勉強したよ。他にはどんな漢字があるかな？調べてみよう。



【子供のやる気を引きだそう】

- 個に応じた家庭学習を出しましょう。(課題克服プリントの活用等)
- 子供たちが主体的に家庭学習に取り組むためには、「見届け」が必要です。がんばりを認めたり、次につながるアドバイスをしたりしましょう。

〇〇先生も見てくれた。うれしいな。

【家庭学習について職員間で共通理解を図ろう】

- 家庭学習の内容・量について共通理解を図りましょう。
- 家庭学習をチームで見守り、コメント等を書きましょう。
- 子供同士でお互いの家庭学習ノートを見合って学び合ったり、認め合ったりする機会を設けましょう。

【コメント例 (教師編)】

○教師は、取組内容について具体的なコメントを！

- 低学年** ・ていねいに、とめ、はね、はらいまで気をつけて書けたね。
- 中学年** ・べん強のしゅうかんがみについてきたね。いいぞ！つぎはれん習した漢字の意味を調べて、作文でつかってみよう。
- 高学年** ・量の単位のしくみは、もう一度、例題をやってみるといいですね。

★子供の取組を認め、ほめ、励まし、伸ばすコメントを書きましょう。

コメントがあるとうれしいな！また今日も頑張ろう！



(4) 家庭学習のポイント3 (家庭編)

- 子供たちが、自ら家庭学習に取り組むためには、家庭での保護者の関わりは欠かせません。子供たちが、取り組んでいることを「認め ほめ 励まし 伸ばす」ことで、子供たちのやる気はアップします。しっかり見守っていきましょう。

【認め、ほめ、励まし、伸ばそう】

- 子供のノートを見て頑張ったことを認めましょう。
- よくなった点、工夫した点を具体的にほめましょう。
- 継続できていることを励ましましょう。

前より集中できる
ようになったね!



- また、家庭学習をする際の学習環境づくりも大切です。学習に集中する環境をつくり、継続して励ましていくことが必要です。家庭で話し合っ、ルールを決めて取り組ませましょう。

【つくろう! やる気にさせる学習環境】

- 机の上には学習用具だけ、これが集中するポイント。
- 正しい姿勢で学習する。
- 学習に必要なもの(辞書等)は、近くに置く。
- 決まった時間は、継続する。



学年×10分(目安)
勉強しよう。

【各家庭で話し合っルールを決めましょう】

- (例) ながら勉強はしない。
保護者が見守る部屋で勉強しよう。
読書を毎日10分間しよう。

- 家庭学習ノートに家庭の一言コメントがあると、子供たちのやる気が持続します。ノートを会話のきっかけにすると、よい関係にもつながります。家族のコミュニケーションツールとして活用しましょう。日々の積み重ねを通して、子供の成長を実感することもできます。

コメント例 (家庭編)

○保護者は、取り組んでいること自体を認めましょう。

- | | |
|-----|---------------------|
| 低学年 | ・ノートいっぱいがんばりました。 |
| 中学年 | ・たしかめをすることは、よいことだね! |
| 高学年 | ・自分の苦手なことに挑戦できたね! |

私たちも応援しているよ。



チェックリストを活用して、家庭学習の取組を子供、学校、家庭で見直し継続・充実させましょう。

家庭学習 チェックリスト（例） 子供編

- いつ、何を、どれくらい取り組むか、自分で計画を立てている。
- 自分で計画したことに取り組んでいる。
- 学習したことができるようになったかチェックできている。
- その日の学習の復習ができている。
- これから学習する内容の予習ができている。
- もっと知りたいことや興味のあること、疑問に思ったことをテーマにした自主学習に取り組んでいる。

家庭学習 チェックリスト（例） 学校編

- 家庭学習の内容・量について、学校の中で共通理解を図っている。
- 帰りの会等を活用して、いつ、何を、どれくらい取り組むか、児童生徒が見直しをもてる計画を立てさせている。
- 授業中に家庭学習につながる声かけをしている。
- 家庭学習の取組内容に対する具体的な励ましコメントを入れている。
- 子供同士で、お互いの家庭学習ノートを見合って学び合ったり、認め合ったりする機会を設けている。
- 家庭学習の取組について保護者に働きかけている。
- 自主学習を紹介している。

家庭学習 チェックリスト（例） 家庭編

【子供と一緒にチェック】

- 家庭学習について、ルールを決めている。
- 机の上は、学習用具だけで集中できる状態になっている。
- 正しい姿勢で家庭学習に取り組んでいる。
- 家庭学習を、決まった時刻に始めている。
- 家庭学習ノートをもとに子供とのやり取りができている。

【保護者がチェック】

- 子供の家庭学習ノートを見ている。
- 子供の家庭学習ノートで、良くなった点、工夫した点をほめている。
- 子供が家庭学習を継続することを、認め、ほめ、励ましている。

〈自学の取り組み方の指導〉

自学は、自分のために、自分に必要なことを学習するものである。先のことを見通して、どんな勉強が必要かを考え計画を立てて学習することが大切であること、そして、意図を持って取り組み、自分にとってどうだったかを振り返ることで学習内容の定着と自己理解を図るものであることを指導している。

日付を書きます。

まちがったところだけを、もう一度やって確かめましょう。

習った漢字を全部書くのではなく、とくに、苦手なところ**を練習しましょう。**


次の日の授業の予習をしてもいいですね。

自分が持っている問題集に取り組むのもいいですね。「毎日1ページずつする！」など、**自分で計画をたてて進めてみましょう。**

最後にふりかえりをかきましょう。
目的&感想を2行ほど
 ・何のために何をした
 ・やってみてどうだった

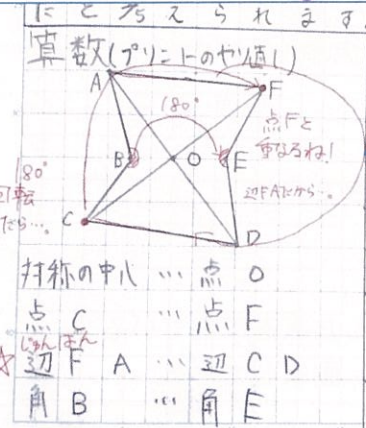
~自学ノート~

自分のための学習
自分で計画を立ててする学習



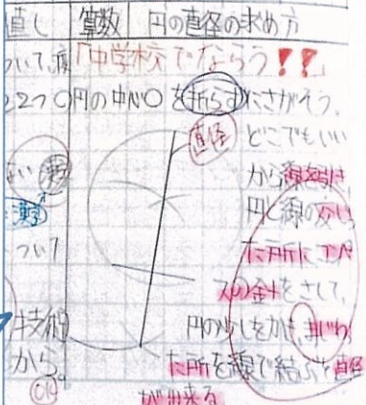
ぎゅうぎゅうづめ
 しなくてもいいよ

授業中に、あまり分からなかったところを、もう一度、自分の言葉で説明して、理解を深めよう。



間違えたところに重点を置いて復習するのが効果的です。

授業中、こんな方法もあるよ、と紹介したことに挑戦しています。説明の言葉は自分なりに考えています。



【家庭学習 学校実践例】 ～御船町立滝尾小学校～

〈家庭と連携を図った家庭学習の取組〉

実施方法

- 1 毎月第3～4週目の月曜日から1週間を学習週間「いきいきたきおっこ大作戦（学習編）」とし、毎日家庭で記録をつける。
- 2 保護者から「うちの人のサイン」にサインをもらい、学校がある日は毎日提出する。
- 3 担任が進捗状況を確認し、「先生のサイン」にサインをする。
- 4 一週間の取組が終わったら、児童が目標に対する反省や感想などを記入し、保護者からコメントを書いてもらい、提出する。
- 5 担任、校長が確認し、アドバイスや激励などを記入する。
(10月からは、友だちからのメッセージからのメッセージも書いてもらっている)

そのほか毎日...
すてきな...
もって...
かてい がくしゅう どくしよ
家庭学習・読書
ひょうじかん
10分 2年30分 3年40分
もくひょうじかんをたっせい
できるようにがんばりましょ
う!!
ごうけいのじかんをいろで
ぬりましょう。

日	日にち	したこと				合計(分)	おうちの先生						
		しゅくだい	おんどく	どくしよ	そのほか		10	20	30	40	50		
						30							
14	(月)	○	○	○	○	42							
15	(火)	○	○	○	○	30							
16	(水)	○	○	○	○	33							
17	(木)	○	○	○	○	35							
18	(金)	○	○	○	○	37							
19	(土)	○	○	○	○	32							
20	(日)	○	○	○	○	40							

がんばったこと・がんばろうとおもうこと
どくしよをもとがんば
ること思っています。

おうちのひとから
まいにち 30分 がんば
りました。

先生から KAWACHI
よく字の練習を
文をノートに書いて
ことばを 自主べんばらるる
いいます。

学校だよりでも、家庭学習の取組について掲載されています。

家庭学習の交流をしました
先週は、「いきいきたきおっこ大作戦（学習編）」でした。今回、子どもたちに、お互いのカードを見て、励みやアドバイスのコメントを書いてもらいました。右の二つは、2年生が書いてくれたコメントです。読書や漢字の練習をしたかどうか、ノートを使ったらいいよとか、具体的に書いてあります。とても励みになると思います。今後もみんなで家庭学習を頑張っていきます。

しゅくだいがないと
きは家にある本とか
かん字のれんしゅうを
するといは

そのほかができていないから
かん字はかせをやるといいよ
あと、ノートをもっていたらその
ノートにかん字のれんしゅうをしたら
かん字のテスト100点になつてよ
いっしょにがんばろう。

【家庭学習 学校実践例】 ～御船町立御船中学校～

〈自分で計画を立てて取り組む家庭学習につなげる帰りの会〉

1 帰りの会終了後の10分間を使って自主学習に取り組み、生徒にその日の家庭での自主学習の計画、見直しをもたせる。

2 10分間の自主学習の前半は学校で用意したプリントで学習をする。 (例) 自主学習ノート

- 各教科担当（5教科）でノートの $\frac{1}{3} \sim \frac{1}{2}$ くらいの大きさのプリントを準備する。
- プリントの内容は前の週に授業で学習した内容で、基礎基本の徹底を中心に作成する。
- プリントは自主学習ノートの上半分に貼るようになる。

○月○日(○)	自主学習
学習プリント	
自主学習	

(帰りの会の進め方)

- ① 机の上には生活ノートを開いて、筆記用具だけを置く。(それ以外は置かない。)
- ② 帰りの会での連絡を生活ノートに記入する。
- ③ 生活ノートを片付け自主学習ノートを開く。
- ④ 班で自主学習ノートを見せ合い、一人から自主学習のコメントをもらう。



- ⑤ 本で行う自主学習を10分間行う。
- ⑥ 下校

(自主学習の内容)

月	火	水	木	金	土	日
国語	社会	数学	理科	英語	力をつけたい教科	

(タイムスケジュール)

基本日課	
帰りの会	15:45～15:55
自主学習	15:55～16:05
部活動	16:15～

6

「熊本の学び」推進プランの実施

推進プランの実施に当たっての留意点

- これまで第2章～第5章で述べた「熊本の学び」推進プランを着実に実施するために、次の4点について留意します。

(1) 家庭、地域への啓発

- 学校が家庭や地域と目標やビジョンを共有していくことは、様々な教育課題に対して、学校教育だけでなく社会教育と連携・協働しながら地域ぐるみで対応していくことにつながっていきます。家庭や地域の理解と協力を得ることは、学校教育の質の向上のみならず、家庭や地域での教育を充実させていくためにも大きな効果があります。そこで、多くの家庭や地域に「熊本の学び」の目指すべきビジョン等が分かりやすく伝わるよう、各家庭に「熊本の学び」のポイントを分かりやすく解説した資料等を配付したり、県の広報誌等を活用して地域へ紹介したりするなど、あらゆる媒体を通じて周知広報活動を行っていきます。

(2) 市町村教育委員会との連携

- 今後、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校・家庭・地域がより一層、連携・協働していくことが重要になります。本推進プランでは、この三者（学校・家庭・地域）に加え、子供、行政（市町村教育委員会）を含めた五者が一体となって連携を深め、地域の活性化に寄与する「学びの風土」を醸成することを推進していきます。そこで、今後は、市町村教育委員会に対して、「熊本の学び」の目指すべきビジョン等を説明するとともに、市町村教育委員会から寄せられた意見等を踏まえ、教育施策の推進に生かします。

(3) 研究機関等との連携

- 本県における教育の充実及び振興を図るために設置している県立教育センターと連携を図り、研修等の機会に活用していきます。また、研究指定校事業を展開し実践的な研究を行ったり、「熊本の学び」フォーラムを開催したりして好取組事例についての発信等を行い、各学校や教育委員会による主体的な取組を推進します。

(4) 新時代到来を見据えた定期的な方針の見直し等

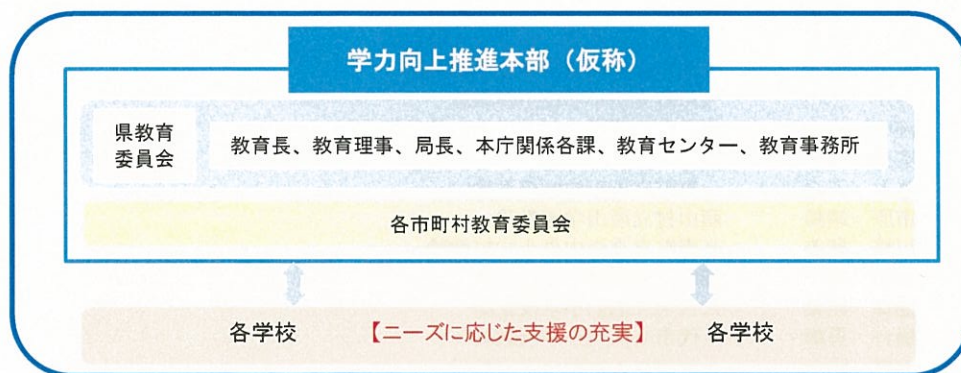
- 超スマート社会（Society5.0）の到来により、人工知能（AI）やビッグデータの活用などを通して、多様な学びが可能となり、それらが関連し合うことで教育や学びの在り方は大きく変化することが予測されます。そのような中、これまで第2章～第5

章で述べてきたことについては、着実に実施するとともに、県学力・学習状況調査や全国学力・学習状況調査の客観的な根拠に基づき成果を検証していきます。更には、今後、到来するであろう新たな時代の教育に対応できるよう、以下のようなスケジュールで定期的に見直し等を行うとともに、市町村教育委員会や学校現場の意見等を踏まえ、適宜、協議できるような体制を構築していきます。

- ・ 2020年4月 「熊本の学び」の実働
- ・ 2022年 検討委員会にて部分修正、追記等
- ・ 2024年 検討委員会にて部分修正、追記等
- ・ 2026年 検討委員会にて部分修正、追記等
- ・ 2028年 2030年の教育を踏まえ全面改訂準備

今後の方向性 ～学力向上の全県下的な取組の充実に向けて～

- 学力向上に向けた取組には、本推進プランで述べているように、五者の連携の強化がより一層、重要になります。そこで、今後、県教育委員会では、五者の中の行政（教育行政）の連携を確固たるものにするために、県教育委員会関係各課、教育センター、教育事務所はもちろんのこと、市町村教育委員会も含めた「学力向上推進本部（仮称）」を設置し、子供たちの学力向上に全県下で一体的に取り組んでいきます。



- その際、それぞれの役割を明確にするとともに、各学校や教職員のニーズに応じた支援やめりはりのある施策等の充実に努めるとともに、子供たちを「学びの主体」として育てるためのよりよい環境づくりを加速させていきます。
- 最後になりますが、市町村教育委員会や各学校においては、本プランを御活用いただき、それぞれの地域や学校の特色や実情に応じた「熊本の学び」に取り組んでいただくことを期待します。

「熊本の学び推進プラン」作成協力者

(職名は令和元年12月現在)

「熊本の学び」総合構想会議委員

児島 邦宏	東京学芸大学名誉教授
田口 浩継	熊本大学大学院教育学研究科教授
松岡 義博	株式会社ココファーム会長
西山 忠彦	株式会社中九州クボタ社長
阿南 誠一郎	阿蘇市教育長
田浦 かおり	熊本県PTA連合会副会長
苫野 一徳	熊本大学大学院教育学研究科准教授
浦川 健一郎	熊本大学教育学部客員教授
浦田 安之	大津町立大津中学校長
大園 恭幸	人吉市立人吉東小学校長
岩崎 良博	上天草市立大矢野中学校長
高山 裕子	玉名市立玉名町小学校スーパーティーチャー
志賀 文美	阿蘇市立波野中学校教諭
田中 香織	大津町立大津小学校教諭

「熊本の学び」ワーキンググループ委員

本村 由紀博	宇城市立豊野小中学校長
本山 浩文	玉名市立横島小学校長
堤 浩利	菊池市立泗水中学校長
藤岡 寛成	高森町立高森中学校長
吉田 明博	益城町立益城中学校長
永野 直文	八代市立第一中学校長
吉井 秀男	水俣市立水俣第一小学校長
沼田 龍弥	天草市立亀川小学校長
宮脇 真一	熊本大学大学院教育学研究科准教授
尾崎 多佳子	宇城市立小野部田小学校教頭
松永 尚子	山鹿市立米野岳中学校教頭
福田 恒臣	大津町教育委員会審議員
浦上 友紀	宇城市立松橋中学校主幹教諭
島 章人	荒尾市立荒尾第一小学校主幹教諭
長尾 浩史	菊池市立菊池南中学校主幹教諭
古川 忠司	大津町立室小学校主幹教諭
浅野 順二	菊陽町立菊陽中部小学校主幹教諭
柴田 征宣	宇城市立豊野中学校教諭
宮本 斉之	玉東町立玉東中学校教諭
市原 靖隆	産山村立産山学園教諭
川崎 留美	高森町立高森中央小学校教諭
松山 淳一	御船町立御船中学校教諭
樋口 佳菜	八代市立植柳小学校教諭
樋口 勇輝	八代市立八代小学校教諭
内村 洋介	人吉市立人吉西小学校教諭
吉海 雄平	湯前町立湯前小学校教諭
下中 一平	天草市立本渡南小学校教諭
松下 純也	天草市立本渡東小学校教諭
田中 恵介	天草市立佐伊津小学校教諭
松村 吉教	山鹿市立山鹿中学校教諭
杉 聖也	教育政策課指導主事
那須 治美	球磨教育事務所指導主事
中原田 聖子	芦北教育事務所指導主事
西山 俊企	県立教育センター室長
櫻井 祐二	県立教育センター指導主事
田上 貴昭	県立教育センター指導主事
水上 洋平	県立教育センター指導主事

【問合せ先】

熊本県教育庁教育指導局義務教育課

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

TEL 096-333-2688 FAX 096-385-6718

[Http://kyouiku.higo.ed.jp/](http://kyouiku.higo.ed.jp/)